

# 第4 「放課後子供教室推進事業」 とは



流しそうめん  
中山っ子くらぶ（川島町）

# 「放課後子供教室推進事業」について

## 1 概要

### (1) 趣旨

全ての子供を対象として、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用し、安全・安心な子供の活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子供たちに勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供することにより、子供たちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

また、土曜日等において社会人や企業の参画を得て、土曜日ならではの多様なプログラムを子供たちに提供し、教育支援体制の構築を図るとともに、未来を担う子供たちを健やかに育むため、地域の人材を活用し、学習が遅れがちな中学生等に対して学習支援を行う。

### (2) 事業の内容

#### ア 指導者研修等の実施（県）

##### (ア) 推進委員会の設置

実施方針の検討、指導者研修の企画、事業実施後の検証・評価等

##### (イ) 指導者研修の実施

コーディネーター等の資質向上や情報交換・情報共有を図るための研修を実施

##### (ウ) 市町村が実施する「放課後子供教室」「土曜日の教育支援」「中学生学力アップ教室」への支援（市町村への補助金の交付、各種会議等による情報提供）

##### (エ) 放課後の居場所づくり推進事業の実施

人材確保に課題があるため放課後子供教室の実施日数や教室の拡大ができない市町村に対し、アドバイザーを市町村の負担なしで配置

#### イ 「放課後子供教室」「土曜日の教育支援」「中学生学力アップ教室」の実施（市町村）

##### (ア) 「放課後子供教室」の実施

教育活動サポーターやボランティアを配置し、スポーツ・文化活動等の様々な体験活動や地域住民との交流活動等の取組を実施

また、教育活動推進員を配置し、補習等の学習活動の取組を実施

##### (イ) 「土曜日の教育支援」の実施

土曜教育推進員やボランティアを配置し、体系的・継続的なプログラムを企画・実施

##### (ウ) 「中学生学力アップ教室」の実施

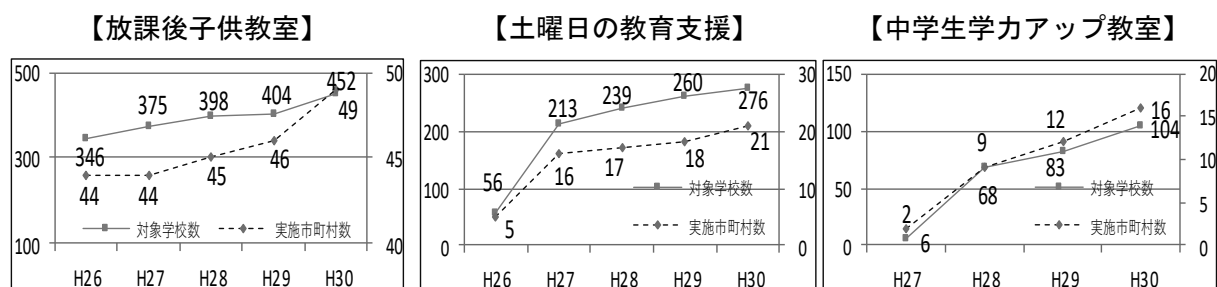
学習支援員やボランティアを配置し、中学生を対象とした学習支援を実施

##### (エ) 運営委員会の設置

##### (オ) コーディネーターの配置

## 2 実施状況等

### (1) 実施状況



※1 平成26年度より新規事業として「土曜日の教育支援」を開始

※2 平成27年度より新規事業として「中学生学力アップ教室」を開始

※3 平成30年度の「教室数及び対象学校数」の内訳は、(2)のア、イ、ウに記載

(2) 平成30年度実施市町及び対象学校数

ア 放課後子供教室 対象学校数：452校（うち補助対象学校数：41市町386校）

南部地区			西部地区			北部地区			東部地区		
市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数
鴻巣市	13	13	所沢市	11	32	熊谷市	29	29	行田市	6	6
草加市	21	21	東松山市	10	10	秩父市	13	13	春日部市	21	22
蕨市	7	7	狭山市	12	14	上里町	7	5	羽生市	6	6
戸田市	12	12	入間市	27	16	寄居町	6	6	久喜市	23	23
志木市	11	8	富士見市	11	11	横瀬町	1	1	三郷市	4	19
和光市	9	9	ふじみ野市	13	13	皆野町	3	3	蓮田市	4	4
新座市	11	11	坂戸市	4	4	長瀨町	2	2	吉川市	1	8
桶川市	7	7	鶴ヶ島市	17	8	小鹿野町	4	4	杉戸町	3	6
北本市	8	8	日高市	6	6				松伏町	1	1
川口市	24	24	毛呂山町	2	4				加須市	3	3
伊奈町	14	4	嵐山町	1	3				越谷市	18	19
			小川町	2	2				八潮市	10	10
			ときがわ町	2	3				幸手市	2	1
			川島町	6	4						
			吉見町	2	2						
			越生町	1	2						
			滑川町	1	3						
11市町	137	124	17市町	128	137	8市町	65	63	13市町	102	128

イ 土曜日の教育支援 対象学校数：274校（うち補助対象学校数：16市町221校）

南部地区			西部地区			北部地区			東部地区		
市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数
上尾市	6	33	所沢市	1	1	熊谷市	18	45	三郷市	6	27
蕨市	7	7	東松山市	2	2	深谷市	19	19	春日部市	9	9
朝霞市	6	6	ふじみ野市	6	19	寄居町	1	6	八潮市	2	15
新座市	17	17	坂戸市	14	12	横瀬町	1	1			
北本市	12	12	鶴ヶ島市	1	8						
草加市	21	21	毛呂山町	2	4						
伊奈町	20	7	越生町	2	3						
7市町	89	103	7市町	28	49	4市町	39	71	3市	17	51

ウ 中学生学力アップ教室 対象学校数：104校（うち補助対象学校数：11市町65校）

南部地区			西部地区			北部地区			東部地区		
市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数
北本市	2	4	越生町	1	1	熊谷市	16	16	加須市	5	8
川口市	24	24				秩父市	5	8	久喜市	11	11
草加市	2	2				深谷市	10	10	八潮市	1	5
伊奈町	6	7				長瀨町	1	1			
						小鹿野町	3	1			
						上里町	2	2			
						寄居町	8	3			
						横瀬町	1	1			
4市町	34	37	1町	1	1	8市町	46	42	3市	17	24

※1 政令指定都市（さいたま市）を除く。

※2 網掛け：中核市及び県の補助を受けずに単独事業として実施している市町。

※3 「対象学校数」とは、各事業に参加可能な子供が在籍する学校の数を表す。

### (3) 成果

#### ア 子供たちに関する成果

- 活動を通じて、地域の方々への感謝の気持ちや郷土愛が育まれている。
- 多くの体験活動を通して、子供たちの豊かな人間性の育成につながっている。
- 学校の授業だけでは身に付かない知識や技能を身に付けることができた。
- 家でも進んで学習する習慣がついた。
- 異学年での交流をすることで、学年に応じた行動をするなどの協調性や社会性が育まれている。

#### イ 保護者に関する成果

- 保護者も一緒に活動することもあり、学校・家庭・地域の連携の場となった。
- 低学年保護者会の時間に放課後子供教室を実施してくれるので、安心して保護者会に参加することができた。
- 理科実験の日は、帰宅するととても楽しそうに作り方や遊び方を説明してくれ、親子で楽しく会話ができている。

#### ウ 指導者や地域に関する成果

- 児童とスタッフの間に信頼関係ができ、地域でスタッフと児童が互いに声を掛け合うなど、地域全体で地域の子供たちを育てていくという意識が生まれている。
- 同じ地域の子供たちの成長に関わることができ、指導者の生きがいになっている。
- スタッフ同士での交流も生まれ、地域のコミュニティづくりにつながっている。

### (4) 課題

- スタッフの高齢化に伴う人材の確保
- プログラムの開発など、内容の充実
- 開催日数や活動場所の確保
- 学校や他団体との連携・協力体制の構築
- 保護者や地域住民への事業の周知方法



# 第5 「放課後子供教室推進事業」 の実践事例 (実施市町の取組)



バースデーワークショップ  
放課後志木っ子タイムむねよん（志木市）

## 鴻巣市（19校）

運営委員会名	鴻巣市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計20名)	実施校の校長5名、PTA代表者1名、放課後子ども教室コーディネーター12名、関係課職員2名		
検討内容	放課後子ども教室の実態把握について 「放課後子ども総合プラン」の計画について 放課後子ども教室、放課後児童クラブの活動内容について		
放課後子供教室 実施教室数	13教室	放課後児童クラブ 箇所数	19箇所
対象学区	13校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 7教室 連携型 4教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	36日
コーディネーター数	13人	ボランティア数	279人

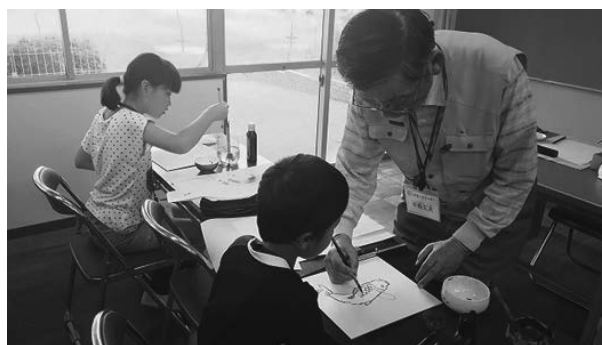
### 教室紹介

教室名	大芦小学校放課後子ども教室	活動場所	余裕教室、多目的教室、体育館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 53人 1日平均参加者数 20人
活動内容	宿題・プリント、スポーツ、科学マジック、水墨画、押し花アート、世界の遊び、昔遊び、料理、将棋、ヒップホップ、出前特別講座		
連携団体	学校応援団、地域ボランティア、保護者ボランティア、社会福祉協議会登録団体		
活動の成果	<p>小学生時代の豊かな体験は、子どもたちの今後の成長の大きな力となると考え、体験を中心とした内容を工夫している。講師の依頼や場の設定、準備など大変であるが、多くの方の協力を得て、充実した運営ができ子どもたちも生き生きと活動することができた。</p> <p>将棋、水墨画、ヒップホップダンス、押し花アートなどでは、継続的に参加して能力を高めている子も増え、講師のやりがいにも繋がっている。</p> <p>継続的に組み入れることの出来ない活動を「出前特別講座」として、単発的に計画し、実施した。</p> <p>&lt;実施例&gt;・レモン電池作り（関東電気保安協会） ・万華鏡作り（東京ガス） ・化石レプリカ作り（県立自然の博物館学芸員）等</p> <p>保護者と児童の合同説明会を行い、放課後子ども教室の趣旨や約束ごとを確認したことにより、保護者の協力が得られ、参加児童の意欲的な取組も見られた。</p>		



【昔遊び】

出来上がった割りばし鉄砲でのあて



【水墨画】

季節に合わせた題材を描きます

## 草 加 市 (21校)

運 営 委 員 会 名	草加市放課後子ども教室推進事業運営委員会		
構 成 役 職 ( 合 計 1 4 名 )	放課後子ども教室代表者3名、放課後児童クラブ代表者2名、草加市平成塾運営委員会、草加市民生委員・児童委員協議会、草加市PTA連合会、草加市町会連合会、草加市子ども会育成者連絡協議会、草加八潮地域安全推進連絡協議会、草加市小学校校長会、草加市教育委員会（学務課長、指導課長）		
検 討 内 容	事業計画の策定、安全管理方策の調査及び検討 広報活動方策の調査及び検討 ボランティア等地域協力者の人材確保方策の調査及び検討 事業実施後の検証・評価、放課後児童健全育成事業との連携の検討 その他事業の運営に関し必要な事項		
放 課 後 子 供 教 室 実 施 教 室 数	21教室	放 課 後 児 童 ク ラ ブ 箇 所 数	35箇所
対 象 学 校 区	21校区	一 体 型 ・ 連 携 型 実 施 教 室 数	一体型 20教室 連携型 1教室
主 な 対 象 学 年	全学年	平 均 開 催 日 数	46日
コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	14人	ボ ラ ン テ ィ ア 数	280人

### 教室紹介

教 室 名	小山小『小山』	活 動 場 所	マルチルーム・図書室・校庭
参 加 対 象	全学年	参 加 者 数	登録児童数 73人 1日平均参加者数 49人
活 動 内 容	宿題・ボール遊び・昔遊び・お絵かき・ボードゲーム 等		
連 携 団 体	なし		
活 動 の 成 果	<p>小山小放課後子ども教室『小山』は平成30年2月に開設された新規教室であり、毎週木曜日に開催している。小山小放課後子ども教室の開設をもって、草加市全21校で放課後子ども教室を開設することができた。</p> <p>放課後子ども教室が開設されたことで、普段関わる機会の少ない学年との交流や、地域とのつながりを生むきっかけができ、子供たちの放課後の居場所の一つとなっている。</p> <p>日頃から、放課後子ども教室のスタッフと、児童クラブ支援員との間でコミュニケーションが図られており、また、校庭では、放課後子ども教室の児童と放課後児童クラブの児童が一緒になって遊んでいる。今後は放課後子ども総合プラン連絡会を立ち上げ、連携について話し合いを進めていく。</p>		



【何回飛べるかな？校庭遊びの様子】



【何ができるかな？室内遊びの様子】

## 藤 市（7校）

運営委員会名	藤市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計15名)	開設校の校長の代表者1名、各実行委員会の代表者7名、民生・児童委員の代表者1名、スポーツ又は文化関係団体の代表者2名、留守家庭児童指導室関係者1名、社会教育委員の代表者1名、PTAの代表者1名		
検討内容	放課後子ども教室実施状況について 放課後子ども教室委託料について 謝金の改正について 等		
放課後子供教室 実施教室数	7教室	放課後児童クラブ 箇所数	16箇所
対象学区	7校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 7教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	30日
コーディネーター数	7人	ボランティア数	204人

### 教室紹介

教室名	西小学校区放課後子ども教室	活動場所	余裕教室、図書室、体育館、校庭 等
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 133人 1日平均参加者数 110人
活動内容	宿題、各種工作教室、スポーツ活動、自然体験教室（畑作業）、自由遊び 等		
連携団体	町会、市民活動団体 等		
活動の成果	<p>登録児童及び参加者数が多いため活動場所の確保が困難であるが、学校と密に連携を図り、PTA会議室等を借用して開催できた。また、毎回スタッフ会議を行い、活動内容の確認や注意事項等、スタッフ間で情報を共有しているほか、当日のスタッフの配置を年度初めに協議し、固定化したことでスムーズな運営につながった。</p> <p>放課後児童クラブは、校内に1か所と徒歩10分の場所に1か所あり、事業終了後、スタッフが送り届ける。その際、放課後児童クラブのスタッフに申し送り事項を伝達したり、参加者の行き違いがないか等の連絡や確認を行ったりしている。</p> <p>校外（隣接地）に市が保有している土地を借用し、1年を通して農業体験を実施している。子供たちに土に触れあう機会を提供するとともに、この活動を通じて「食」に関する知識の向上に寄与できた。</p>		



【大根の収穫】



【じゃがいもの収穫】

## 戸田市(12校)

運営委員会名	戸田市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計8名)	学校関係者(小学校長)1名、PTA関係者2名、社会教育関係者2名、地域住民(放課後子ども教室コーディネーター)2名、行政関係者(教育政策室担当課長)1名		
検討内容	放課後子ども教室の実態把握について スタッフ募集のための広報活動について コーディネーター・安全管理員向けの研修について		
放課後子供教室 実施教室数	12教室	放課後児童クラブ 箇所数	12箇所
対象学区	12校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 12教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	24日
コーディネーター数	12人	ボランティア数	159人

## 教室紹介

教室名	新曽小学校放課後子ども教室	活動場所	余裕教室、校庭
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 59人 1日平均参加者数 35人
活動内容	宿題、ボール遊び、工作、ギタナ遊び、わくわくタイム(子どもが中心になってゲーム等を実施)、季節のイベント(七夕飾り制作、ハロウィン、クリスマスオーナメント制作)		
連携団体	特になし		
活動の成果	放課後児童クラブとの一体型により、登録児童の3割以上が放課後児童クラブの児童となっている。保護者が連絡帳にて、参加することを事前に放課後児童クラブへ伝え、終了時には、放課後子ども教室のスタッフが放課後児童クラブまで児童を送り届けることで連携して実施できている。また、子ども会で使わなくなった用品を譲り受けたりしながら、児童が飽きないような取り組みを実施することで、児童も興味を持って積極的に参加している。さらに、児童が手作りの工作やゲームで貰った賞品などを保護者へ見せることで、保護者からも好評を得ているとともに、スタッフのモチベーション向上にも繋がっている。		

流行りの音楽に合わせ椅子取りゲーム  
で遊ぶ児童ビンゴ大会で真剣に数字を確認してい  
る児童

## 志木市（8校）

運営委員会名	志木市放課後子ども総合プラン運営委員会		
構成役職 (合計12名)	放課後子供教室代表3名、学校長2名、学童保育クラブ関係者2名、PTA関係者1名、健康福祉部次長、学校教育課長、生涯学習課長、子ども家庭課長		
検討内容	市内全校への放課後志木っ子タイム導入について 導入校の選定など		
放課後子供教室 実施教室数	3教室 (放課後学習教室8教室)	放課後児童クラブ 箇所数	8箇所
対象学区	8校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 3教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	200日
コーディネーター数	4人	ボランティア数	110人

### 教室紹介

教室名	志木っ子タイムむねよん	活動場所	学童専用教室、余裕教室等
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 335人 1日平均参加者数 76人
活動内容	宿題、プログラム活動（舞踊、サッカー、空手など）、自由遊び		
連携団体	市民団体、地元サークル団体 等		
活動の成果	<p>平成30年度より志木市では、1事業者による放課後子ども教室と学童保育クラブを平日17時までで同じ場所で同じ活動をする一体型運営を導入した。</p> <p>これまでは、学童保育に通う児童は限られた人数で限られた活動をしていたが、多くの児童と自由な活動ができるようになった。また、放課後子供教室を新たに導入したことにより、すべての児童に対して、安心・安全な放課後の居場所を提供することが実現した。</p> <p>登録者数については全校生徒の約77%が登録している。</p> <p>日々の活動のプログラムに協力してくれている人は地域のサークル団体などがほとんどで地域の人々と多世代に交流できる場にもなっている。</p>		



【学校の体育館でスポーツ鬼ごっこをする児童】



【舞踊プログラム参加者が市民文化祭で披露】

## 和光市（9校）

運営委員会名	和光市子ども教室運営委員会		
構成役職 （合計18名）	各小学校実行委員9名、和光市小学校校長会代表1名、和光市小学校教頭会代表1名、学童クラブ代表3名、コーディネーター代表2名、学校教育課長、生涯学習課長		
検討内容	放課後児童の居場所づくりに係る全体計画について わこうっこクラブ及び子ども教室の実態把握と運営改善について わこうっこクラブ及び子ども教室の運営にかかわる方策について		
放課後子供教室 実施教室数	9教室	放課後児童クラブ 箇所数	12箇所
対象学区	9校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 9教室 連携型 0教室
主な対象学年 コーディネーター数	全学年 9人	平均開催日数 ボランティア数	129日 73人

## 教室紹介

教室名	第三小学校わこうっこクラブ	活動場所	多目的室、校庭、体育館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 214人 1日平均参加者数 16人
活動内容	宿題、自主学習、外遊び、工作教室、スポーツ教室、理科実験教室 等		
連携団体	各学校のPTA・保護者会、人形劇サークル、理科実験サークル		
活動の成果	<p>「わこうっこクラブ」は、宿題を済ませることができることや校庭や体育館で遊べることで、子供たちから好評である。学校敷地内に設置されている学童クラブと敷地外にある学童クラブからも児童を受入れ、児童間の交流や異年齢集団づくりを図ることもできている。さまざまな経験や特技を有する教育活動サポーターが折り紙、工作、スポーツ等のミニ教室を実施しており、サポーターとのふれあいを心待ちにしている子どもも多い。校庭や体育館での遊びでは、学童クラブの支援員とともにわこうっこクラブサポーターが子どもたち全体を見守り、連携を図りながら、子ども達の安全確保と成長を促す体制づくりに努めている。</p> <p>年間18回開催する「子ども教室」には両学童クラブからも多くの児童が参加し、スポーツや文化活動を楽しんでいる。地域住民の参画のもと、体験活動の充実を図るため子ども教室運営委員会での協議をとおして質の高いプログラムが提供できるよう環境づくりを推進している。</p>		



【地域の方が講師となったマジック教室】  
子ども達もトランプを使ってマジックに挑戦



【サポーターが描いた背面黒板の絵に子ども達が飾りをつけて迎えたクリスマス】

## 新 座 市 ( 1 7 校 )

運 営 委 員 会 名	新座市子どもの放課後居場所づくり事業運営委員会		
構 成 役 職 ( 合 計 2 4 名 )	教育長、小学校長2名、PTA会長、町内会連合会会長、民生・児童委員協議会会長、社会教育委員、放課後児童保育室支援員代表者、実行委員会委員長3名、コーディネーター代表者5名、こども未来部長、教育総務部長、学校教育部長、こども支援課長、保育課長、教育支援課長、社会福祉協議会副局長兼総務課長、生涯学習スポーツ課長		
検 討 内 容	事業の運営状況について、新規開設校について、アンケートの実施及び結果について、事業に関する要綱、マニュアル等の改正について		
放 課 後 子 供 教 室 実 施 教 室 数	11教室	放 課 後 児 童 ク ラ ブ 箇 所 数	17箇所
対 象 学 校 区	11校区	一 体 型 ・ 連 携 型 実 施 教 室 数	一体型 11教室 連携型 0教室
主 な 対 象 学 年	全学年	平 均 開 催 日 数	220日
コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	28人	ボ ラ ン テ ィ ア 数	225人

### 教 室 紹 介

教 室 名	八石ココフレンド	活 動 場 所	ココフレンドスタッフルーム、校庭、体育館
参 加 対 象	全学年	参 加 者 数	登録児童数 187人 1日平均参加者数 34人
活 動 内 容	宿題、読書、工作、外遊び（サッカー等）、体育館遊び（大縄、ボール遊び等）、室内遊び（マンカラ、トランプ等）、英会話、ダンス、科学実験、プログラミング 等		
連 携 団 体	IT系民間事業者、十文字学園女子大学、立教大学学生サークル、スポーツ推進委員、レクリエーション協会、ジュニアリーダー、青少年育成推進委員会、読み聞かせ団体 等		
活 動 の 成 果	<p>平成30年度に新規開設をし、給食のある日の放課後はほぼ毎日午後5時まで、夏休みなどの長期休業日は朝から夕方まで1日開室している。</p> <p>夏季休業日には、委託により英語・ダンス・科学実験の講座を実施すると共に、民間事業者協力によるプログラミング教室や大学サークルによるバルーンアートも行った。このほか、水遊び、手作りラケット、ドッジボール大会、スノードーム作り、8ココ祭りなど、多数のイベントを実施した。今後は、放課後児童保育室との合同避難訓練も予定している。</p> <p>ココフレンドが開室し、児童は自主的に宿題を済ませるようになった。また、異学年の児童やスタッフなど、交流の幅が広がった。さらに、児童とスタッフの間に信頼関係ができ、地域でスタッフと児童が互いに声を掛け合うようになった。</p>		



【学習の時間】宿題に取り組む様子



【8ココ祭り】牛乳パックと乾電池でできたサイコロヨーヨー釣りの様子



## 桶川市（7校）

運営委員会名	桶川市放課後子供教室事業運営委員会		
構成役職 （合計20名）	学校長1名、各小学校PTA役員7名、小学校区を活動圏域とする地域の方1名、各小学校コーディネーター7名、社会教育委員1名、行政関係者3名		
検討内容	事業計画の策定、事業実施後の検証及び評価等		
放課後子供教室 実施教室数	7教室	放課後児童クラブ 箇所数	7箇所
対象学校区	7校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 7教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	約130日
コーディネーター数	17人	ボランティア数	約180人

### 教室紹介

教室名	加納小学校放課後子供教室 愛称「加納小学校あいあい広場」	活動場所	加納小学校低学年図書室
参加対象	加納小学校 全児童	参加者数	登録児童数 33人 1日平均参加者数 18人
活動内容	学習の時間（自主学習）、ふれあいの時間（読み聞かせ・体育館遊び・間違い探し・お琴教室・みんなで歌おう・ちぎり絵・ペン立て作り・花の鉢植え・ボール投げ・バルーンアート・影絵で遊ぼう・プラ版 等）		
連携団体	クレッシェンド、貢穂会、ホワイトベル、手品サークル、スポーツ吹矢、彩央会 等		
活動の成果	平成28年9月に開室してから、「であい・ふれあい・学びあい」をモットーに、5つのやくそくを守って、子供たちとスタッフが活動に取り組んでいる。前半の学習の時間では、各自すぐに宿題に取り掛かり、終わった後も読書やぬり絵等、自席で黙々と行っている。後半のふれあいの時間では、スタッフの話をよく聞き、学年を越えて仲良く活動している。月1回程度、学童と日程を調整し、連携事業としてふれあいの時間に交流活動を行っている。		



【やじろべえ作り】学童の児童も一緒に世界に一つだけのやじろべえを作成している様子



【手作りたこ釣り大会】紙筒で「たこ」を作り、誰が早く釣れるか競争をした様子

## 北本市（8校）

運営委員会名	北本市放課後子ども教室推進事業運営委員会		
構成役職 (合計18名)	放課後子ども教室代表8名、放課後児童クラブ関係者1名、学校長代表2名、PTA代表2名 コミュニティ協議会代表2名、民生委員・児童委員代表1名、学校教育課長、こども課長		
検討内容	実施計画の策定・安全管理方策、広報活動の方策、地域の協力者を確保、事業プログラムの企画、事業実施後の検証及び評価、その他事業の運営に関し必要な事項		
放課後子供教室 実施教室数	8教室	放課後児童クラブ 箇所数	11箇所
対象学区	8校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 8教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	143日
コーディネーター数	19人	ボランティア数	154人

### 教室紹介

教室名	中丸小放課後子ども教室	活動場所	余裕教室、多目的ホール等
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 36人 1日平均参加者数 20人
活動内容	宿題、フォークダンス、笑いヨガ、吹矢、ボール遊び、読み聞かせ、プラバン 等		
連携団体	学校応援団、北本市フォークダンスサークル		
活動の成果	<p>○学童保育との共通プログラムを6回実施</p> <p>活動内容については実行委員会やコーディネーター会議、学童保育室の指導員代表との会議で話し合い、児童の興味・関心の高いものや大勢でできるゲームを中心に検討。プログラムに合わせ、施設の使用について学校と調整を行った。地域の方々の協力もあり、室内ゲーム、スポーツ、お楽しみ会、フォークダンス等、多岐にわたる活動を行うことができ、多くの児童から「楽しかった」という声を聞くことができた。</p> <p>また、全ての児童が参加できるよう実施曜日を変えたり（児童によって教室への参加曜日が異なるため）、毎月発行している教室だよりに記事を掲載したりすることで保護者の共通プログラムへの理解が深まるよう努めている。</p> <p>今後は、よりスムーズに活動できるよう学童保育室と放課後子ども教室のスタッフ全員で役割を分担していくシステムを構築していきたい。</p>		



体育館でフォークダンスを楽しむ放課後子ども教室と放課後児童クラブの子供たち



ボール運動（ドッジボール）に夢中になる放課後子ども教室と放課後児童クラブの子供たち

## 所 沢 市 (32校)

運営委員会名	校区運営委員会		
構成役職 (合計21名)	当該小学校のPTA代表者、当該小学校長、地域の適任者(学校評議員、後援会長等)、スタッフリーダー(コーディネーター)等		
検討内容	運営方法、活動内容の検討、スタッフの確保等		
放課後子供教室 実施教室数	11教室	放課後児童クラブ 箇所数	48箇所
対象学区	32校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室 連携型 3教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	186日
コーディネーター数	14人	ボランティア数	105人

### 教室紹介

教室名	清進小学校 せいしんネットほうかごところ	活動場所	校庭・体育館・図書室・ スタッフルーム
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 342人 1日平均参加者数 47人
活動内容	野球・一輪車・ドッジボール・フラフープ・テニス・読書・宿題等		
連携団体	地域と学校が一体となったネットワーク(組織名:せいしんネット)を組んでいる。		
活動の成果	<p>清進小学校では、平成14年、週末の子供たちの居場所づくりを目指し、地域と学校が一体となってネットワーク(組織名:せいしんネット)を組み、当時より土曜・日曜いきいき教室も含め、各種行われてきた。「清進小学校せいしんネットほうかごところ」はその組織を運営母体とし、平日放課後の子どもたちの安全・安心な居場所づくりを目指し、平成19年2月に開設された。</p> <p>「ほうかごところ」では、子供の中から自然発生的に生まれてくる遊びにより、子供たちが仲間とのかかわりを大切にする心を醸成している。子供たちにとって、「ほうかごところ」は自主的な遊びの場、異年齢児童間の交流の場として、心や体の成長の一助になっている。</p> <p>また、みどり児童館第二生活クラブの児童が時々校庭に遊びに来たり、生活クラブの指導員によるキックベースボール大会などが楽しく行われていたりしている。このような、近隣の生活クラブとの連携も図っているところである。</p> <p>子供だけでなく、「保護者の友達づくり」も大切にしている。スタッフから機会あるごとに保護者とのつながりを呼びかけ、子育てで孤立することのないような助け合いを進めている。</p> <p>今後も子どもの遊ぶ力や輝く笑顔を見守っていく。</p>		



【体育館遊び】  
輪になってバドミントン



【図書室での活動】  
仲間と教え合いで取り組む宿題



【校庭遊び】  
長縄跳びで記録に挑戦

## 東松山市(11校)

運営委員会名	東松山市放課後子ども教室連絡会議		
構成役職 (合計35名)	放課後子ども教室コーディネーター10名、小学校長10名、PTA会長10名、放課後児童クラブ事務局長、教育総務課長、学校教育課長、保育課長、子育て支援課長		
検討内容	放課後子ども教室の検証について 放課後子ども教室の活動内容について 次年度の実施内容について		
放課後子供教室 実施教室数	10教室	放課後児童クラブ 箇所数	17箇所
対象学区	10校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 0教室
主な対象学年 コーディネーター数	1～3年 10人	平均開催日数 ボランティア数	56日 68人

### 教室紹介

教室名	ハーモニックいちのかわ	活動場所	余裕教室、体育館、グラウンド
参加対象	1～3年生	参加者数	登録児童数 24人 1日平均参加者数 24人
活動内容	宿題、室内遊び、体育館やグラウンドでの遊び、外部講師による演奏 等		
連携団体	外部講師(市に登録された人・グループ)等		
活動の成果	<p>まず、「あ」あいさつ、「く」くつをそろえる。宿題の用意をして、「か」カバンと「ぼ」帽子をロッカーにおく。周りを整理して落ち着いて宿題に取り組む。保護者より片付け、宿題に取り組む習慣がついたとの感想があった。</p> <p>また、いろいろな活動を通して、子どもの自主性を育てようとしているが、先日のお楽しみ会では、一ヶ月以上前から3年生の何人かが準備を始めて、それに協力する子どもが出て来て、最後には10人も参加する劇を作り上げ発表することができた。他の子供たちもその刺激を受け、いくつかのグループを作り、演奏や縄跳びの発表をすることができた。</p> <p>そして、帰りの会では、「ハーモニック」とあるように必ず歌を1～2曲ほど合唱する。外部の方にはいつも歌をほめられ、子供たちは自信をもつことができた。</p>		



クリスマスに向けてリース作り



お楽しみ会で創作劇を発表

## 狭山市（15校）

運営委員会名	狭山市地域子ども教室連絡会T i eに委託		
構成役職 (合計5名)	代表理事1名、副代表理事2名、他が運営委員会を組織 (各教室の代表者が理事となり、理事会を組織)		
検討内容	狭山市地域子ども教室の運営について		
放課後子供教室 実施教室数	12教室	放課後児童クラブ 箇所数	15箇所
対象学区	14校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 8教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	10日
コーディネーター数	2人	ボランティア数	148人

### 教室紹介

教室名	奥小放課後クラブ	活動場所	体育館、校庭
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 129人 1日平均参加者数 75人
活動内容	活動前に集団で小ゲーム、宿題、外遊び、ボール遊び		
連携団体	学校、学童保育室		
活動の成果	<p>下校班に放課後クラブ班があり、児童は自動的に放課後クラブに下校してくる。学童からの参加者も多い。学童の児童は、放課後クラブが終了後、学童保育室よりお迎えがある。</p> <p>学校・学童保育室・放課後子ども教室の三者の連携がとれている。</p> <p>年度末にお礼の会が開催され、スタッフにとっても励みとなる。</p> <p>以前、不審者が、学校周辺に出没したが、放課後クラブのスタッフが下校途中の児童を保護者が迎えに来るまで自宅にかくまったことがあり、地域の大人の顔が見える関係が出来てきている。</p>		



【工作】

工作は大人気いつもたくさん集まっている



【大縄飛び】

大人が回してくれると回数も増える

## 入間市(16校)

運営委員会名	入間市放課後子ども教室事業運営協議会		
構成役職 (合計15名)	入間市立小学校の児童の保護者の代表者2名、地域住民により組織する団体の代表者3名、学校教育及び社会教育の関係者4名、市内に在住する者のうちから公募するもの3名、知識経験者3名、 事務局：青少年課		
検討内容	事業計画の策定に関すること、安全管理方策に関すること、広報活動方策に関すること、地域協力者の人材確保方策に関すること、実施プログラムの企画に関すること、事業実施後の検証及び評価に関すること		
放課後子供教室 実施教室数	27教室	放課後児童クラブ 箇所数	20箇所
対象学区	16校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 26教室 連携型 1教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	35日
コーディネーター数	5人	ボランティア数	55人

### 教室紹介

教室名	わく☆ドキッ!せいぶ	活動場所	入間市立西武公民館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 96人 1日平均参加者数 20人
活動内容	昔遊び、生け花、ソーラン節、文化祭参画、工作、木工、お茶のいれ方、かるた遊び等		
連携団体	NPO法人あそびあーとこども劇場いるま、入間市華道連盟、茶人等		
活動の成果	年間を通して、多岐にわたる体験活動を実施できた。参加者の保護者からは、「普段家庭には体験できないことにチャレンジできる」「同学年ではない子たちとも一緒に体験でき、遊びの幅が広がった」などの声があった。また、公民館事業に参画することで、地域の方々に教室をアピールすることができ、地域からの人材発掘にもつながっている。その他、放課後子ども教室への参加を機に、小学校になかなか行けていなかった子がスムーズに学校へ登校できるようになったという事例もあった。		



【和太鼓ソーランコラボ】保護者の前で「いるティーン」とソーラン節を踊る



西川材のカンナくずでリースづくり

## 富士見市(11校)

運営委員会名	富士見市地域子ども教室連絡協議会		
構成役職 (合計約36名)	各教室運営委員26名、生涯学習課職員2名、公民館職員4名、交流センター職員2名、児童館職員1名、放課後児童クラブ職員1名 他		
検討内容	各教室間の情報共有と共通課題とその解決策について検討		
放課後子供教室 実施教室数	11教室	放課後児童クラブ 箇所数	11箇所
対象学区	11校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 11教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	13日
コーディネーター数	13人	ボランティア数	250人

### 教室紹介

教室名	東っ子くらぶ	活動場所	図書室、体育館、校庭
参加対象	低学年全員登録 3年以上任意登録制	参加者数	登録児童数 194人 1日平均参加者数 72人
活動内容	自由遊び、昔あそび、もちつき大会、紙ひこうき大会 等		
連携団体	PTA、町会、地区社協、公民館、放課後児童クラブ 等		
活動の成果	<p>水谷東小学校において、地域子ども教室として「東っ子くらぶ」の愛称の下、平成20年より学校応援団の一翼を担い活動している。</p> <p>年4回行われる「地域連絡会議」(4町会町会長、水谷中学校、水谷東小学校、小中PTA会長、水谷東公民館長、社会福祉協議会、学校応援団、ふれあいサロン、老人クラブ、顧問が出席)に東っ子くらぶ代表が参加できる協力体制を作り、地域の方々、学校の先生方にもご理解いただき活動している。</p> <p>低学年保護者会と同時間帯に開催することで、安心して保護者会に参加でき、児童は他学年との交流ができ、社会性が育っている。</p> <p>お迎え方式の為、保護者も地域サポーターとの交流ができ、地域の方々との交流が生まれている。</p>		



【もちつき大会&昔遊び】



【体育館自由遊び】

## ふじみ野市（13校）

運営委員会名	放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計11名)	小学校校長会代表、PTA連合会代表、放課後児童クラブ関係者2名、自治組織連合会代表2名、民生委員・児童委員協議会代表、放課後子ども教室指導員代表、文京学院大学教職課程センター特任准教授、子育て支援課長、学校教育課長		
検討内容	放課後子ども教室の現状と課題、新・放課後子ども総合プランについて、放課後子ども教室実施要綱改正案について、配慮を要する児童の今後の対応について等		
放課後子供教室 実施教室数	13教室	放課後児童クラブ 箇所数	16箇所
対象学区	13校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 13教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	33日
コーディネーター数	14人	ボランティア数	90人

### 教室紹介

教室名	亀久保小学校放課後子ども教室	活動場所	学習室、校庭、体育館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 40人 1日平均参加者数 37人
活動内容	宿題、工作（ちぎり絵、絵合わせパズル等）、サイエンスショー、スポーツ等		
連携団体	くまさん文庫、大井フォークダンス連盟、ハーモニカ愛好会等		
活動の成果	<p>指導員が用意した絵や自分で描いた絵に、新聞広告等のカラー印刷部分をちぎって貼り付けてちぎり絵を作成した。沢山ある新聞紙の中から、同じ色を見つけるのに苦労しており、小さい広告や写真部分でも探していた色を見つけると喜んでいて、まるで宝探しをしているようだった。</p> <p>ちぎり絵をとおして粘り強く1つのことに取り組む力。また全く同じ色が見つからなくても似ている色を貼り付ける等の創意工夫する力を育むことが出来た。</p> <p>今後の課題は、工作を楽しむだけでなく、自分が使ったものは自発的に片づける力も育んでいきたい。</p>		



【ちぎり絵】いるか製作中！！



【ちぎり絵】ハンバーガー満足の出来栄え！！



## 坂戸市(12校)

運営委員会名	放課後子どもげんき教室運営委員会		
構成役職 (合計23名)	小学校校長4名、社会教育委員委員長、民生・児童委員地区協議会会長、スポーツ推進員代表、コーディネーター4名、活動推進員代表、サポーター代表4名、PTA代表4名、児童クラブ代表4名		
検討内容	実施地区間の情報交換 放課後子どもげんき教室及び放課後児童クラブの一体的な運営方策 教育委員会と福祉部局の具体的な連携方策 小学校の余裕教室等の活用方策 活動プログラムの企画・充実及び開催時における安全管理の方策 事業実施後の検証・評価等の実施 地域協力者の人材確保、広報活動の方策		
放課後子供教室 実施教室数	4教室	放課後児童クラブ 箇所数	14箇所
対象学区	4校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 3教室 連携型 1教室
主な対象学年 コーディネーター数	全学年 4人	平均開催日数 ボランティア数	27日 72人

### 教室紹介

教室名	子どもげんき教室	活動場所	余裕教室、体育館、校庭
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 292人 1日平均参加者数 86人
活動内容	サッカー・ゲートボール・鬼ごっこ・鉄棒・たこあげ・なわとび・ドッジボール・大なわとび・バドミントン・ボール遊び・宿題・将棋・オセロ・トランプ・かるた・けん玉・輪投・こま回し・お手玉・おはじき・ぬり絵・読み聞かせ・折り紙・お絵かき・七夕飾り・クリスマス会 等		
連携団体	なし		
活動の成果	平成30年10月から、大家小学校で新規開設することができた。これにより、合計4教室の実施となる。こまやお手玉、紙しばいなど、昔の遊びにふれることの少ない現代において、貴重な場としての機能をはたしている。		



【工作をする児童】



【紙しばいを見学する児童】

## 鶴ヶ島市（8校）

運営委員会名	鶴ヶ島市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計10名)	放課後子ども教室代表3名、放課後児童クラブ関係者1名、校長代表1名、PTA代表1名、子ども・地域に関する活動関係者4名		
検討内容	放課後子ども教室の実態把握について 放課後子ども総合プランについて 放課後子ども教室、放課後児童クラブの活動内容について		
放課後子供教室 実施教室数	17教室	放課後児童クラブ 箇所数	13箇所
対象学区	8校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 7教室 連携型 10教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	85日
コーディネーター数	17人	ボランティア数	約110人

### 教室紹介

教室名	放課後のびのび算数教室	活動場所	市内全小学校（8校）
参加対象	2年生～6年生	参加者数	登録児童数 平均65人 1日平均参加者数 10人
活動内容	算数の基礎学習を通じて、「わかる」「できた」喜びを味わい、算数好きな児童を育てながら学習意欲の向上を図る。		
連携団体	算数学力向上支援員		
活動の成果	<p>年度当初に復習プリントを行い、個々のつまづきのポイントを確認してから学習を始めている。また、授業の進度に合わせたプリント学習をするために、担任と学力向上支援員との間で連絡ノートを活用している。参加した子供たちからは、「ゆっくり丁寧に教えてもらって、苦手だった算数が好きになった」「また、参加したい」などの感想があった。支援員からは、「子供たちの成長、喜ぶ姿を見るのが楽しみ」「生きがいを感じながら地域づくりに貢献できる」などの声が寄せられている。</p> <p>課題としては、低学年の参加希望は多いが、高学年では希望者が減少傾向にあり、子供たちが参加しやすい環境づくりを進めていくことが重要である。また、より効果的な指導を行えるよう、プリント作りを検討していきたいと考えている。</p>		



【放課後のびのび算数教室の学習風景1】



【放課後のびのび算数教室の学習風景2】

## 日高市（6校）

運営委員会名	各学校区放課後子供教室実行委員会が役割を担っている		
構成役職 （合計20名）	保護者、地区健全育成の会、地区体育協会、自治会、民生・児童委員、スポーツ少年団		
検討内容	放課後子供教室の活動内容について		
放課後子供教室 実施教室数	6教室	放課後児童クラブ 箇所数	14箇所
対象学校区	6校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 5教室 連携型 1教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	10日
コーディネーター数	10人	ボランティア数	120人

### 教室紹介

教室名	輝多っ子アフターすく〜る	活動場所	体育館、校舎、校庭
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 85人 1日平均参加者数 80人
活動内容	シャーベットづくり、スポレク、アカペラ、クリスマス会 等		
連携団体	少年少女合唱団（公民館サークル）		
活動の成果	地域ぐるみで組織した実行委員会が企画・運営する中で、地区体育協会から参画している委員を中心とした「スポーツレクリエーション」や公民館サークルの協力による「アカペラ教室」など、子どもたちが楽しさを実感できるイベントを開催することが出来た。		



【スポーツレクリエーション】  
ニュースポーツに夢中になる児童たち



【クリスマス会】  
けん玉を楽しむ児童たち

## 毛呂山町（4校）

運営委員会名	毛呂山町放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計10名)	社会教育関係者、学校関係者、PTA関係者、学童保育関係者、青少年健全育成経験者、知識経験を有する者、コーディネーター2人、町職員教育委員会職員		
検討内容	運営状況について、情報交換		
放課後子供教室 実施教室数	2教室	放課後児童クラブ 箇所数	4箇所
対象学区	4校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	32日
コーディネーター数	2人	ボランティア数	0人

### 教室紹介

教室名	木曜のあそびクラブ	活動場所	町立図書館、毛呂山小体育館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 48人 1日平均参加者数 42人
活動内容	宿題、紙芝居・読み聞かせ、体育館での運動、工作、ゲームあそび		
連携団体	図書館ボランティア、マジッククラブMORO		
活動の成果	<p>木曜のあそびクラブは、町立図書館が活動場所となっており、図書館の利用方法を低学年のうちから活動を通じて学ぶことができる点は、当教室の特徴である。平成30年度は読書環境が整った中で、1年生から5年生の児童48人が活動を行っており、うち8名は、木曜日のみ学童保育所から放課後子供教室に参加する児童である。</p> <p>学年によって下校時刻が異なるため、全員が揃うまでの時間を個人学習とし、全員が揃う午後3時45分から全体学習の時間に当て、活動時間を管理することで、児童は自由と規律を学ぶ。また、活動を通して一般の図書館利用者に対する配慮等についても児童一人一人が学んでいく。</p> <p>図書館ボランティアによる紙芝居や絵本の読み聞かせ、生涯学習人材バンクを介したマジック教室の開催等、地域人材の活用もあった。</p> <p>近接する毛呂山小学校の協力により、体育館での活動もあり、図書館の雰囲気とは異なる開放感の中での活動も取り入れている。</p>		



個人学習は宿題や読書等で過ごす



全体学習のようす

## 嵐山町（3校）

運営委員会名	嵐山町交流センター運営協議会		
構成役職 (合計10名)	地域団体の関係者1名、ボランティア団体の関係者1名、学校教育及び社会教育の関係者2名、センター利用団体の関係者5名、町長が特に必要と認める者1名		
検討内容	放課後子ども教室の実態把握について		
放課後子供教室 実施教室数	1教室	放課後児童クラブ 箇所数	4箇所
対象学区	3校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 1教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	31日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	60人

### 教室紹介

教室名	嵐山町放課後子ども教室スイミ	活動場所	嵐山町ふれあい交流センター等
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 59人 1日平均参加者数 19人
活動内容	宿題、サツマイモ苗植えイモ掘り、マジック教室、バス研修旅行、縄跳び教室 等		
連携団体	学童保育室、鎌形地区老人会、嵐山大妻中学校・高校、嵐山町ボランティアセンター		
活動の成果	<p>地域の団体、ボランティアのサポートもあり、バラエティに富んだ内容の体験活動を行うことができた。異なる世代の地域住民である老人会との連携では、昔から伝えられてきている行事や農作業の事を教えてもらい、和やかな交流の時間を持つことができた。</p> <p>学童保育室との連携により、通常の活動場所ではなく、小学校の体育館や、小学校に隣接している公共施設で活動した。また、大人数で取り組むことで、よりにぎやかで活気に満ちた取組を行うことができた。</p>		



【なわとび教室ダブルダッチに挑戦!】の前に準備運動をしている児童



【サツマイモ掘り】鎌形地区老人会「友和会」のみなさんの手ほどきでおいもほり

## 小川町（6校）

運営委員会名	小川町放課後子供教室運営委員会		
構成役職 (合計12名)	区長会代表1名、老人会代表1名、PTA代表1名、保護者会代表1名、民生児童委員代表1名、放課後児童クラブ代表1名、小学校長代表1名、社会教育委員代表1名、公民館運営審議会代表1名、学識経験者2名、行政代表1名 ※オブザーバーとしてコーディネーター		
検討内容	放課後子供教室実態把握と課題検討（現実実施校2校） 3校目立ち上げ計画の進捗状況把握と課題検討		
放課後子供教室 実施教室数	2教室	放課後児童クラブ 箇所数	8箇所
対象学区	2校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室 連携型 1教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	28日
コーディネーター数	2人	ボランティア数	25人

### 教室紹介

教室名	小川町放課後子供教室 ああこす おがわ	活動場所	余裕教室、体育館、校庭
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 55人 1日平均参加者数 52人
活動内容	宿題、ボール遊び、手作りおもちゃ教室、箏・茶道・尺八体験、英語活動 等		
連携団体	学校応援団、茶道サークル、箏サークル 等		
活動の成果	<p>運営委員に、放課後子供教室の活動を実際に見ていただいたことにより、より広い視点で成果や課題を指摘していただくことができた。</p> <p>オブザーバーとしてコーディネーターにも運営委員会に出席していただき、各教室からの現状を明確に伝えることができた。</p> <p>今年度は、通常の活動である学習と軽スポーツや遊びの取組も充実していた。子供たちも楽しく参加し、よりよいスタッフのかかわりがあり安全に活動を支援することができた。</p> <p>特別の活動として、箏・尺八・茶道の体験を実施することができた。10名以上の指導者をお招きして、個別に丁寧に体験をサポートしていただいた。</p> <p>保護者からも、安全・安心でよりよい体験の場である放課後子供教室に対して、お礼の言葉をいただいている。</p>		



【箏の体験活動】 指導者をお招きし、個別に箏の体験をし、簡単な曲の演奏に取り組んだ。



【通常の学習のようす】 宿題、自主学习、スタッフの用意したプリント等に取り組んでいる。

## ときがわ町(3校)

運営委員会名	萩ヶ丘いきいき教室打ち合わせ会		
構成役職 (合計9名)	小学校長、小学校教頭、萩ヶ丘いきいき教室指導員(6名うち1名放課後児童クラブ指導員兼務)、生涯学習課担当者		
検討内容	萩ヶ丘いきいき教室の活動について		
放課後子供教室 実施教室数	2教室	放課後児童クラブ 箇所数	3箇所
対象学区	3校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 1教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	約190日
コーディネーター数	2人	ボランティア数	8人

## 教室紹介

教室名	萩ヶ丘いきいき教室	活動場所	グラウンド、教室(図工室)
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 26人 1日平均参加者数 15人
活動内容	自由遊び、軟式野球、宿題		
連携団体	地域の方(野球経験者)		
活動の成果	<p>「萩ヶ丘いきいき教室」は、放課後に児童が安心・安全に過ごせる場所と環境を提供することを目的とし、主に児童の自由遊びを見守る活動を中心に運営しており、隣接する児童クラブ「学童保育所やまびこ」に入所している児童も遊びに加わり、学年・性別の区別なく、和気あいあいと活動している。</p> <p>月に1回程度、地域の方を講師として「萩いき野球」(軟式野球)を実施し、野球を通じた基礎体力づくりを行っている。</p> <p>全校児童数50人以下という、小規模校の実情にあった活動を維持し、地域の方の協力を得て、放課後の安心・安全な居場所づくりができています。</p>		



【萩いき野球】

地域の方に野球の指導を受ける児童



児童クラブの子と一緒に外遊び

## 川島町（4校）

運営委員会名	川島町地域子ども教室実行委員会		
構成役職 (合計14名)	川島町教育委員会教育長、放課後子供教室コーディネーター6名、川島町公民館連絡協議会会長、副会長、社会教育指導員、生涯学習課長、生涯学習課職員		
検討内容	放課後子供教室の運営について 放課後子供教室、放課後児童クラブの連携について		
放課後子供教室 実施教室数	6教室	放課後児童クラブ 箇所数	3箇所
対象学区	4校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室 連携型 5教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	12日
コーディネーター数	6人	ボランティア数	128人

### 教室紹介

教室名	中山っ子くらぶ	活動場所	公民館、小学校校庭、体育館
参加対象	中山っ子くらぶに登録している全学年児童	参加者数	登録児童数 44人 1日平均参加者数 25人
活動内容	流しそうめん、芋ほり、餅つき、工場見学、ペットボトルロケット作り 等		
連携団体	各種公民館団体、JA、公民館、小学校、工場見学実施企業		
活動の成果	元公民館長や地域の顔役が、放課後子供教室のコーディネーターになることで、地域や公民館で活動する様々な団体との連携が可能となった。小学校や放課後児童クラブとも連携を取りながら、毎年、子供たちにとって魅力的な事業を実施するように努めている。また、活動を実施する際は、子供達が日常生活では経験することが難しい体験や、地域の人との交流が重視されている。その結果、放課後子供教室の活動外でも児童とスタッフが顔を合わせると挨拶をするなど、地域全体で地域の子供たちを育てていくという土壌が生まれている。		



【ペットボトルロケットを飛ばそう】  
小学校の校庭を使用して、飛ばしました。



【芋ほり体験】  
地域の方の畑をお借りして、芋ほり体験



## 吉見町(6校)

運営委員会名	吉見町放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計12名)	教育委員1名、社会教育委員1名、放課後子ども教室実施校の校長2名、放課後子ども教室実施校のPTA会長2名、放課後児童クラブ関係者2名、社会教育指導員、子育て支援課長、教育総務課長、生涯学習課長		
検討内容	放課後子ども教室の実施状況について 児童、保護者、指導者アンケート結果について 成果と課題について		
放課後子供教室 実施教室数	2教室	放課後児童クラブ 箇所数	2箇所
対象学区	2校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	57日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	15人

## 教室紹介

教室名	北小放課後子ども教室	活動場所	北公民館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 41人 1日平均参加者数 27人
活動内容	自主学習、軽スポーツ、工作、室内ゲーム、外遊び等		
連携団体	なし		
活動の成果	<p>和やかな雰囲気の中で活動が行われ、その中で、共に「認め合い、語り合い、学び合う」姿が見られる。毎回の自主学習への積極的な取り組みは、家庭学習の習慣づくりを後押しする力になっている。</p> <p>北小と南小の子ども教室の児童が一緒になって活動する「交流かるた大会」や「交流ドッジボール大会」は、やがて一町一校の中学校に進学する児童たちにとって、新たな友達づくりのきっかけともなっている。(特に6年生は中1ギャップ対策の効果が期待できる。)</p> <p>外出しての遊びが減り、一人遊びが多い傾向にある子どもたちにとって、学年や通学班の異なる児童との交流、他校の児童との交流等、多様な体験ができる放課後子ども教室は、保護者からの評価も高い。</p>		



【楽しい寄せ植え】  
鉢から手作りしました。



【南小北小交流彩の国21世紀郷土かるた大会】

## 熊谷市(29校)

運営委員会名	熊谷市放課後子供教室運営委員会		
構成役職 (合計17名)	熊谷市PTA連合会1名、熊谷市子ども会育成連絡協議会1名、熊谷市青少年健全育成市民会議1名、熊谷市社会福祉協議会1名、熊谷市自治会連合会1名、熊谷青年会議所1名、熊谷市校長会2名、熊谷市公民館連合会1名、(公財)熊谷市体育協会1名、熊谷市文化連合1名、熊谷の環境を考える連絡協議会1名、子どもセンターボランティア代表者1名、熊谷市社会教育委員会議1名、小学校区代表1名、社会教育課長1名、社会教育課指導主事1名		
検討内容	放課後子供教室の実態把握について 放課後子供教室ボランティア研修会の内容について		
放課後子供教室 実施教室数	29教室	放課後児童クラブ 箇所数	28箇所
対象学校区	29校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 23教室 連携型 5教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	18日
コーディネーター数	29人	ボランティア数	3150人

### 教室紹介

教室名	奈良っ子ふれあいメイト	活動場所	奈良小、農業活性化センター
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 313人 1日平均参加者数 26人
活動内容	合宿通学、折り紙教室、ハイキング、宿泊体験、クッキング等		
連携団体	奈良小、奈良公民館、奈良自治会連合会、折り紙で遊ぶ会、奈良加工研究会、奈良婦人会、奈良青少年健全育成会、奈良小学校PTA、奈良子供会、奈良おやじの会、立正大		
活動の成果	<p>奈良小学校区にある農業活性化センターに宿泊しながら学校に通学する合宿通学を5泊6日で実施した。合宿中は地域の方々の指導のもと、子供たちが炊事・洗濯・清掃等を行った。異年齢の子供たちが協力し合いながら自分たちの力で家事を行うことにより、家族への感謝の気持ちと自立する力の育成を図ることができた。</p> <p>合宿通学をはじめ、奈良っ子ふれあいメイトの活動は、地域を支える様々な団体が密接に関わって運営されている。学校と様々な団体との連絡・企画・調整等を担うコーディネーターの働きにより、学校と地域が共に児童を育てるという目標が共有化され、連携・協力が円滑になっている。</p> <p>子供たちは活動をとおして、生活に必要な基本的な技能を高めるとともに、育ててくださっている地域の方々への感謝の気持ちと郷土愛を高めることができた。</p>		



【合宿通学】大学生の引率で農業活性化センターから奈良小学校に登校する児童



【合宿通学】異年齢の子供たちが協力し合いながら夕食をつくる様子

## 秩父市(13校)

運営委員会名	放課後子供教室に係る協議(校長会)		
構成役職 (合計14名)	学校長13名(学校長が放課後子供教室コーディネーター)、学校教育担当課長		
検討内容	放課後子供教室、放課後児童クラブの活動内容について		
放課後子供教室 実施教室数	13教室	放課後児童クラブ 箇所数	17箇所
対象学区	13学区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 9教室 連携型 0教室
主な対象学年 コーディネーター数	全学年 13人	平均開催日数 ボランティア数	240日 130人

## 教室紹介

教室名	南小学校ふれあい学校	活動場所	ふれあい学校教室
参加対象	1～3年生	参加者数	登録児童数 20人 1日平均参加者数 18人
活動内容	宿題、集団遊び、学童保育との交流		
連携団体	南学童保育室、地区消防団、市民生活課		
活動の成果	<p>本校は、校舎1階の余裕教室を利用し、ふれあい学校と学童保育室を設置している。教室が隣にあることから、連携が図りやすく、子供たちが合同で活動する機会を設けたことにより、児童間の親睦を深めたり、安全に対する意識を高めたりすることができた。</p> <p>○遊びの時間での交流 ふれあい学校と学童保育の遊びの時間を同じ時間に設定し、子供たちの創意に基づき、サッカーやドッジボール等、集団で楽しむ活動を行い、異学年の交流を図ることができた。</p> <p>○夏季休業中の合同教室 ・防災教室(学童児童19名、ふれあい学校児童12名参加) 女性消防団員を講師として招き、災害時における命の守り方を説明していただき、災害時に役立つ物として、新聞紙で、なべつかみやスリッパの製作をした。 ・交通安全教室(学童児童19名、ふれあい学校児童9名参加) 市の交通安全指導員を講師として招き、交通安全啓発の体操や安全歩行・安全な自転車乗りのテスト、自転車乗りのDVD視聴等を行った。 以上の合同教室を通して児童は、ISS認証校の自覚を強め、学校だけでなく、地域でも安全・安心な生活を送っていこうという意識を高めることができた。</p>		



【防災教室】女性消防団員を招聘し、ふれあい学校・学童の児童が合同で防災教室実施



【遊びの時間の交流】ふれあい学校と学童の児童が遊びの時間を共有し交流

## 上里町（5校）

運営委員会名	上里町放課後子供教室運営委員会		
構成役職 (合計21名)	実施校校長5名、公民館代表1名、PTA1名、子ども会育成会1名、スポーツ少年団1名、ボランティア団体1名、関係課室長4名、実施校コーディネーター5名、学識経験者2名		
検討内容	放課後子供教室年間事業計画検討、事業成果検証		
放課後子供教室 実施教室数	7教室	放課後児童クラブ 箇所数	5箇所
対象学区	5校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 5教室 連携型 2教室
主な対象学年	3～6年	平均開催日数	5日
コーディネーター数	10人	ボランティア数	51人

### 教室紹介

教室名	じゃじゃ～ん！わんぱく合宿塾	活動場所	上里町七本木公民館
参加対象	町内小学校3年生～6年生	参加者数	登録児童数 30人 1日平均参加者数 30人
活動内容	座禅教室、夕食づくり（うどん、餃子、ハンバーグ）、朝の鐘つき 等		
連携団体	上里町ボランティア連絡協議会、(株)関東地区昔がえりの会、キムラヤ乳業 等		
活動の成果	<p>子どもが親から離れて、異年齢での共同生活をしながら通学することで、家庭の大切さや家族の役割を理解するとともに、子供同士の触れ合いや、大人とのコミュニケーションを図ることで人間関係を深め、生きる力を育むことができた。また、4泊5日の期間中、多くの地域ボランティアに参加いただき、地域に根付いた事業となっている。</p>		



【じゃじゃ～ん！わんぱく合宿塾】  
座禅教室



【じゃじゃ～ん！わんぱく合宿塾】  
集合写真

## 寄居町(6校)

運営委員会名	「より・E放課後塾」運営委員会		
構成役職 (合計13名)	各小学校代表者6名、学習支援サポーター6名、教育委員会担当者1名		
検討内容	「より・E放課後塾」の活動内容について		
放課後子供教室 実施教室数	6教室	放課後児童クラブ 箇所数	6箇所
対象学区	6校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 0教室
主な対象学年	2・3年	平均開催日数	27日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	29人

## 教室紹介

教室名	より・E放課後塾	活動場所	各教室
参加対象	小学校2・3年生	参加者数	登録児童数 455人 1日平均参加者数 450人
活動内容	補充学習		
連携団体	学習支援サポーター		
活動の成果	<p>5時間授業の日の6校時に「より・E放課後塾」を実施したので、2・3年生の全児童が参加できた。</p> <p>5月から3月まで1年間通して算数を中心に指導したことで、その学年の学習内容の補充学習ができ、復習する時間を確保できた。また、習熟度別で学習を進めたことで、「わかった、できるようになった」という児童からの声が聞かれた。</p> <p>各学校に配属されている学習支援サポーター（教員経験者や教員免許状保有者）が放課後学習サポーターとして指導した。学校の授業との接続を図り、学習内容を学級担任と相談し、児童の理解度を把握した上で指導することができた。さらに、各学年に複数の指導者を配置して個に応じたきめ細かい指導を行った。個々の理解度に応じて補充的または発展的な学習を行うことができた。県が作成した「コバトン問題集」や町で作成した「評価問題」なども活用し、学校の算数の授業では時間内にできない練習問題に数多く取り組ませることで、基礎基本の定着を図った。</p> <p>年度当初の学級懇談会で学級担任から保護者に説明し、家庭の理解を得た上で実施した。</p>		



【より・E放課後塾（2年生）】算数の授業の補充学習を行い、学習内容の定着を図った。



【より・E放課後塾（3年生）】1クラスに複数の指導者を配置し、個々の躓きに対応した。

## 横 瀬 町 (1校)

運 営 委 員 会 名	横瀬町放課後等子ども教室運営委員会		
構 成 役 職 ( 合 計 1 1 名 )	学校関係者2名(校長・教頭)、放課後等子ども教室指導員6名 教育総務グループ主幹、教育指導員、主任		
検 討 内 容	放課後等子ども教室活動内容、安全管理、課題解決のための協議		
放 課 後 子 供 教 室 実 施 教 室 数	1教室	放 課 後 児 童 ク ラ ブ 箇 所 数	1箇所
対 象 学 校 区	1校区	一 体 型 ・ 連 携 型 実 施 教 室 数	一体型 0教室 連携型 1教室
主 な 対 象 学 年	1・2年	平 均 開 催 日 数	237日
コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1人	ボ ラ ン テ ィ ア 数	150人

### 教 室 紹 介

教 室 名	横瀬町放課後等子ども教室	活 動 場 所	図書室・体育館・校庭
参 加 対 象	1・2年生	参 加 者 数	登録児童数 42人 1日平均参加者数 33人
活 動 内 容	宿題、読書、集団・自由遊び、折り紙教室・絵本づくり・手話体験・点字体験・簡単クッキング・まんじゅう作り・ディスコン・プログラミング体験等様々な体験活動		
連 携 団 体	学校応援団、ディスコン協会、町役場職員、横瀬中学校生徒、社会福祉協議会		
活 動 の 成 果	<p>学校応援団組織の中核学校応援団実行委員会は、教育委員会が事務局として実施している。支援内容の一つである「放課後等子ども教室」に対して、町当局はもとより町全体から多くの登録者がボランティアとして講師を引き受けてくれる。</p> <p>そのため、毎月複数の様々な体験活動を実施できる。さらに、児童が最大21日通級する夏季休業中では、絵本づくり、点字教室、簡単クッキング、折り紙教室、手話教室、おはなし会といった本町ならではの多くの体験を通して、子ども達の豊かな人間性の育成に大きく寄与している。さらに、本年度はプログラミング体験も実施し、論理的思考につながる体験も行っている。</p>		

第5「放課後子供教室推進事業」  
の実践事例（実施市町の取組）



【手話体験】ボランティア講師の指導により、手話体験をしている児童。



【プログラミング体験】町職員の指導により、タブレットを用いたプログラミング。

## 皆野町（3校）

運営委員会名	皆野町放課後子供教室運営委員会		
構成役職 (合計6名)	学校関係者(校長)3名、コーディネーター3名		
検討内容	実施内容の企画ほか		
放課後子供教室 実施教室数	3教室	放課後児童クラブ 箇所数	2箇所
対象学区	3校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 2教室
主な対象学年	2・3年	平均開催日数	25日
コーディネーター数	3人	ボランティア数	0人

### 教室紹介

教室名	皆野小学校放課後子供教室	活動場所	普通教室
参加対象	2・3年生	参加者数	登録児童数 47人 1日平均参加者数 45人
活動内容	算数の問題集学習		
連携団体	なし		
活動の成果	<p>2・3年生を対象に、算数の問題集を使用した補充学習を中心に実施した。学習内容に算数を選択したのは、低学年からの積み重ねが大切となる教科であること、放課後子供教室指導員による採点・指導が比較的容易なこと、の2点の理由からである。</p> <p>実施日は、2・3年生が5校時で下校となる日の6校時に、週1回教室を開催している。</p> <p>学童保育所との連携や学習内容等、今後も多方面の意見を参考にしながら、改善を図っていきたい。</p>		



【問題集学習の様子】



【採点の順番待ち】

## 長 瀨 町 (2校)

運 営 委 員 会 名	長瀨町放課後子供教室運営委員会		
構 成 役 職 ( 合 計 1 5 名 )	放課後子供教室代表2名、児童クラブ室代表1名、小学校長2名、PTA代表2名、児童クラブ室担当、健康福祉課長、教育長、教育次長、指導主事、事務局(教育総務担当主幹、教育総務担当主事、学校教育指導員)		
検 討 内 容	放課後子供教室の基本構想・活動内容について		
放 課 後 子 供 教 室 実 施 教 室 数	2教室	放 課 後 児 童 ク ラ ブ 箇 所 数	2箇所
対 象 学 校 区	2校区	一 体 型 ・ 連 携 型 実 施 教 室 数	一体型 0教室 連携型 2教室
主 な 対 象 学 年	1～3年生	平 均 開 催 日 数	70日
コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1人	ボ ラ ン テ ィ ア 数	0人

### 教室紹介

教 室 名	はつらつルーム(長瀨第一小)	活 動 場 所	余裕教室、体育館、校庭
参 加 対 象	1～3年生	参 加 者 数	登録児童数 32人 1日平均参加者数 30人
活 動 内 容	宿題、読書、工作、企画行事(絵画教室、軽スポーツ体験)等		
連 携 団 体	放課後児童クラブ室		
活 動 の 成 果	<p>初年度事業であったため、運営委員会を学期毎に開会した。活動報告だけでなく、新たな提案、改善すべき点について、多くの意見を交わすことができた。</p> <p>各小学校に全面的に協力していただき、体育館や用具等を使つての活動を行う事ができた。</p> <p>活動時間内には宿題・学習に取り組む時間を設けており、保護者に好評である。また、通常の活動に加え、季節に応じた行事や工作をすることで、活動の充実を図り、企画行事では、町内の画家の方や、各小学校の地区内の文化団体の協力を得ることができ、地域に根ざした体験を行うことができた。特に、夏休みの町内の全児童を対象とした理科実験教室を行ったところ、多くの児童が参加し、小学校を越えた交流も深まった。</p> <p>教育活動推進員は、児童を温かく見守り、良き支援者として活躍した。</p>		



【夏休み理科実験教室の様子】



【お楽しみ会の相談】



【郷土芸能体験教室(長瀨第二小)の様子】



## 小 鹿 野 町 (4校)

運営委員会名	小鹿野町放課後子供教室運営委員会			
構成役職 (合計15名)	放課後子供教室代表4名、各小学校長、各小学校放課後子供教室担当者、学校教育課長、社会教育主事、学校教育指導主事			
検討内容	放課後子供教室の運営状況について 活動内容についての情報共有			
放課後子供教室 実施教室数	4教室	放課後児童クラブ 箇所数	4箇所	
対象学区	4校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型	2教室
			連携型	2教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	25日	
コーディネーター数	7人	ボランティア数	77人	

### 教室紹介

教室名	小鹿野小学校 放課後子供教室	活動場所	小鹿野町文化センター	
参加対象	小鹿野小学校全児童	参加者数	登録児童数	97人
			1日平均参加者数	45人
活動内容	夏休み学習会(7日間)、土曜日お楽しみ会(10月～3月まで計6回実施)「かんたんクッキーづくり」「おやきづくり」「いもだんごづくり」「繭玉飾り」「室内ゲーム」「まつり寿司づくり」等			
連携団体	民生委員			
活動の成果	<p>『夏休み学習会』は、夏休み中の8月に、7日間の学習会を1～6年までの希望者を対象にして、小鹿野文化センターで行った。夏休みの宿題・個人の課題など、熱心な個別指導を受けることができ、参加した子供たちにも好評であった。『土曜日お楽しみ会』は、体験活動を中心に、指導者との交流も交えて月に1回実施した。</p> <p>1年生～6年生までの希望者を対象にして実施しているため、異年齢・異学年の交流が図られ、多くの子供たちが毎回楽しみに参加することができた。</p> <p>指導者の方々の創意工夫に富んだ活動を毎回実施いただき、児童は楽しみながら夢中になって活動する中で経験を重ね、学校の授業だけでは身につかない知識や技能を身につけることができた。</p>			



夏休み学習会にて地域の方がいねいに学習を支援



土曜日お楽しみ会「かんたんクッキー作り」で楽しくおいしく体験活動

## 行田市（16校）

運営委員会名	行田市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計12名)	放課後子ども教室コーディネーター6名、小学校長2名、PTA代表1名、社会教育関係者1名、自治会長1名、ひとつくり支援課長1名		
検討内容	埼玉県学校・家庭・地域連携推進に関する研究委嘱について 埼玉県放課後の居場所づくり推進事業（アドバイザー制度）について 埼玉県芸術文化ふれあい事業の活用について		
放課後子供教室 実施教室数	6教室	放課後児童クラブ 箇所数	17箇所
対象学区	6校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 4教室 連携型 2教室
主な対象学年	1～3年	平均開催日数	18日
コーディネーター数	6人	ボランティア数	56人

### 教室紹介

教室名	南小学校わくわくクラブ	活動場所	図書室
参加対象	1～3年生	参加者数	登録児童数 44人 1日平均参加者数 41人
活動内容	宿題、読み聞かせ、郷土かるた、インドネシアの紙芝居、羽子板づくり、合唱		
連携団体	読み聞かせサークル「お話の玉手箱」		
活動の成果	<p>今年度からスタートした「南小わくわくクラブ」では、学校運営協議委員の中からコーディネーターを委嘱し、学校・家庭との連携を深めた活動を行うことができた。スタッフは、普段から小学校の学習支援に携わっている方や、子育て支援を推進している方、読み聞かせサークルを運営している方などで構成し、円滑に教室を運営することができた。</p> <p>参加児童たちは、図書室の本に囲まれながら、のびのびとした雰囲気の中で各活動を意欲的に取り組み、活動終了後はいつも笑顔いっぱい帰宅している。隣接する放課後児童クラブの施設には、コーディネーターとスタッフが対象児童を連れていき、児童クラブ支援員との情報共有を図っている。</p>		



「おおきなかぶ」をペープサートで読み聞かせ



オリジナルの羽子板をつくって  
お正月に羽根つき遊び

## 春日部市(24校)

運営委員会名	春日部市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計12名)	小学校長、社会教育委員、自治会連合会副会長、青少年春日部市民会議 会長、PTA 連合会会長、生涯学習市民推進員、公募に応じた者、大学准 教授、元小学校長、保育課主幹、指導課長、公民館長		
検討内容	放課後子ども教室の実施について		
放課後子供教室 実施教室数	21教室	放課後児童クラブ 箇所数	39箇所
対象学区	22校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 20教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	26日
コーディネーター数	24人	ボランティア数	登録制ではない

## 教室紹介

教室名	宮川小学校放課後子ども教室	活動場所	体育館・ランチルーム
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 97人 1日平均参加者数 土曜教室20人 月曜教室77人
活動内容	土曜教室：ミニテニス・ユニカール・バッコー・マジックナイン・親子スポーツ 月曜教室：おもしろ理科教室・レクリエーション・茶道		
連携団体	体育振興会・TSGAサークル・豊春中学校 等		
活動の成果	<p>宮川小学校放課後子ども教室は、平成22年の開設以降、土曜日はスポーツ、ここ数年はミニテニスを主に実施している。月曜日は理科教室を中心に活動している。</p> <p>特に土曜日の教室には、単年の参加ではなく継続して毎年参加する児童が多く、ミニテニスなどの技術の向上だけでなく、講師や見守り等で参加して頂いている地域のみなさまとの交流も深めている。教室開催時には学校の先生が様子を見に来て下さることも多く、参加児童の保護者も一緒に活動する様子も多く見られ、学校・家庭・地域の連携の場となっている。</p>		



【月曜教室 おもしろ理科教室】  
中学生ボランティアと一緒に



【土曜教室 ミニテニス】  
ミニゲーム中

## 羽 生 市 ( 1 1 校 )

運 営 委 員 会 名	羽生市立小学校放課後子ども教室運営委員会		
構 成 役 職 ( 合 計 4 4 名 )	実施校区の学校の代表者 6 名、放課後児童クラブ関係者 5 名、実施校区住民の代表者 6 名、PTA の代表者 6 名、社会教育関係者 6 名、児童福祉の代表者 3 名、教育長推薦 1 2 名		
検 討 内 容	活動報告、来年度の募集について、来年度の活動内容について		
放 課 後 子 供 教 室 実 施 教 室 数	6 教室	放 課 後 児 童 ク ラ ブ 箇 所 数	6 箇所
対 象 学 校 区	6 校区	一 体 型 ・ 連 携 型 実 施 教 室 数	一 体 型 4 教室 連 携 型 1 教室
主 な 対 象 学 年	4 ~ 6 年	平 均 開 催 日 数	2 9 日
コ ー デ ィ ナ ー 数	6 人	ボ ラ ン テ ィ ア 数	0 人

### 教室紹介

教 室 名	羽生北小学校放課後子ども教室	活 動 場 所	余裕教室、体育館
参 加 対 象	4 ~ 6 年 生	参 加 者 数	登録児童数 2 4 人 1 日 平 均 参 加 者 数 1 9 人
活 動 内 容	宿題、木工教室、バドミントン教室、救急救命講習、調理教室、スポーツ推進委員によるフロアカーリング教室、リレー、二人三脚、ドッジボール、オセロ、漫画教室、人形劇、大縄跳び 等		
連 携 団 体	羽生市消防本部、スポーツ推進委員、ボランティア団体むじなっ子		
活 動 の 成 果	<p>児童や指導員の意見をよく取り上げ、興味の湧く多様な体験活動を児童に提供することができた。</p> <p>中でも夏休みイベントでは、スポーツ推進委員やボランティア団体むじなっ子の協力を得て、市体育館でのフロアカーリング教室を実施することができた。また、同じく夏休み中に公民館施設を利用して、料理教室や人形劇、救急救命講習等を行い、児童に学びの場を提供することもできた。</p>		



【救急救命講習】



【フロアカーリング教室】

## 久喜市(23校)

運営委員会名	久喜市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計41名)	社会教育委員代表1名、市内校長会代表1名、スポーツ推進委員代表1名、学童保育運営協議会代表1名、スポーツ少年団代表1名、子ども育成連合会代表1名、民生委員・児童委員協議会代表1名、レクリエーション協会代表1名、PTA連合会代表1名、婦人会連合会代表1名、青年会議所代表1名、生涯学習推進者5名、各教室代表23名、生涯学習課長、保育課長		
検討内容	年間スケジュールにおける各教室見学会や情報交換会、全員研修会等の企画・運営、開催について、15周年記念事業について		
放課後子供教室 実施教室数	23教室	放課後児童クラブ 箇所数	24箇所
対象学区	23校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 18教室 連携型 5教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	17日
コーディネーター数	28人	ボランティア数	2606人

## 教室紹介

教室名	みなみっ子ゆうゆうプラザ	活動場所	特別教室、校庭、体育館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 190人 1日平均参加者数 180人
活動内容	ガラス絵、みなゆう（児童実施委員）、大正琴、室内遊び、囲碁、陸上競技 等		
連携団体	栗橋卓球連盟、久喜陸上競技クラブ		
活動の成果	<p>地域の方や在校生の保護者、学童クラブの職員で実施委員会を組織し、児童のために様々な活動を企画・運営した。本校はコミュニティ・スクールであり、学校には細やかな協力をいただき、特別支援学級の児童も含め、児童の安全、安心に留意し、連携して活動することができた。児童をよく理解している学童クラブの職員が実施委員として参加することで、子どもの心理面に気を配ったり、下校時の安全の確保に努めたりすることができた。</p> <p>特別な活動として、土曜講座で児童が企画から参加し、保護者も子どもたちと一緒に参加することができる講座を行った。全学年が一緒になって楽しみ、地域の方とも交流することができた。また、他校のゆうゆうプラザと合同で楽器の練習や発表を行う等の活動を通して、世代や地域を越えた交流が広がった。</p>		



【室内遊び】地域サポーターに手づくり教材で囲碁を教えてもらう。



【大正琴】地域に住む実施委員からの指導。地域のお祭りにも出演。

## 三郷市（19校）

運営委員会名	三郷市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計12名)	地域住民の代表、社会教育経験者4名、放課後子ども教室代表3名、PTA代表、学校教育担当課長、子ども支援課長、学校教育関係者		
検討内容	放課後子ども教室、運営方法について、今年度の活動状況及び来年度の活動予定について		
放課後子供教室 実施教室数	4教室	放課後児童クラブ 箇所数	19箇所
対象学区	19校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	75日
コーディネーター数	3人	ボランティア数	32人

### 教室紹介

教室名	わくわく砦たかす	活動場所	高州地区文化センター
参加対象	市内の小学生	参加者数	登録児童数 68人 1日平均参加者数 15人
活動内容	宿題、昔遊び、ボール遊び、集団遊び、工作等		
連携団体	特定非営利活動法人M i K Oねっと		
活動の成果	<p>わくわく砦たかすは、毎週火・木曜日の週2回開室している。毎回の教室では、子ども同士での創作遊びや宿題、昔遊び、スタッフが先導して行うレクリエーション等、様々な活動が展開されている。季節ごとにはイベントを行っている。</p> <p>今年度の1月には新春イベントとして「忍者修行」を初の試みで開催した。変身の術、迷路の脱出、くもの巣をくぐって脱出等、忍者にまつわる様々な動きをスタッフから伝授されながら、「忍者修行」という普段なかなかできないような体験を児童たちは大変楽しんでいられる様子であった。児童相互にとっても異学年や他校の児童と触れ合える貴重な機会となった。</p>		



【くもの巣くぐりの術】鈴を鳴らさないように紐の間を潜り抜けている様子



【手探りの術】巾着に何が入っているか当てるゲームを楽しむ様子

## 蓮田市（8校）

運営委員会名	蓮田市放課後子ども教室推進事業運営委員会（蓮田市社会教育委員会）		
構成役職 （合計7名）	蓮田市小中学校長会、子ども会、スポーツ推進委員、民生委員・児童委員、市議会議員（学識経験者）、ボーイスカウト、NPO子育て支援団体		
検討内容	放課後子ども教室の活動内容について		
放課後子供教室 実施教室数	4教室	放課後児童クラブ 箇所数	12箇所
対象学区	4校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 4教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	18日
コーディネーター数	4人	ボランティア数	34人

## 教室紹介

教室名	ひらりんきっず	活動場所	余裕教室（ひらのっこルーム）・体育館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 35人 1日平均参加者数 33人
活動内容	宿題、読み聞かせ、ボール遊びや、ゲーム、鬼ごっこ等		
連携団体	自治会・平野小学校PTA		
活動の成果	<p>指導者たちが、楽しい企画を常に考え、指導者自身が楽しみながら活動しているので、欠席者が少なく、子どもたちにとって有意義な放課後の居場所を提供できた。</p> <p>指導者からは、集団行動の苦手な子が、異学年の子どもと交流を続けることでリーダーシップを発揮することができるようになり、子どもたちの成長する姿を見ることができて、うれしく感じる等の声が上がっている。</p> <p>現在の指導者は、平野小学校を卒業した子どもの保護者がほとんどで、同じ地域の子どもの成長に関わり、指導者側の生きがいにもつながっている。</p>		



【お話し会】



【ボール遊び】

## 吉川市（8校）

運営委員会名	吉川市放課後子ども教室事業運営委員会		
構成役職 (合計18名)	学童保育室関係者2名、放課後子ども教室関係者2名、社会教育団体構成員2名、PTA関係者4名、三輪野江小学校長、教頭、教育委員会職員4名、こども福祉部保育幼稚園課職員2名		
検討内容	1年間の活動内容について(実施プログラムの説明) 放課後子ども教室職員マニュアルについて 学童保育室利用者の参加時間について 安全確保、保護者迎えの場所の確認について		
放課後子供教室 実施教室数	1教室	放課後児童クラブ 箇所数	8箇所
対象学区	8校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室 連携型 0教室
主な対象学年 コーディネーター数	全学年 1人	平均開催日数 ボランティア数	16日 7人

### 教室紹介

教室名	三輪野江小学校放課後子ども教室	活動場所	三輪野江小学校 ふれあいホール・校庭・体育館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 82人 1日平均参加者数 75人
活動内容	タブレット端末を使った学習、ハンドボール教室、サッカー教室、落語体験、編み物体験教室、ドッジボール教室、新聞紙を使ったレクリエーション、木工教室、宿題		
連携団体	なし		
活動の成果	コーディネーター、サポーターの中にPTA関係者がいることで、児童の把握がとてもしやすくなっている。また、保護者の迎えの際にも、お互いに顔見知りのため児童の引き渡しがスムーズである。市内の社会教育団体に所属するサポーターに実施プログラムのアドバイスや協力を積極的にしてもらっている。実施プログラムは多様であり、中でもハンドボール、サッカーはプロに指導を依頼し、子どもたちに本格的な体験を提供することができた。		



【オリエンテーション】放課後子ども教室のルールを参加者全員で聞いている様子



【サッカー教室】3～6年生対象のサッカー教室の様子



## 杉戸町(6校)

運営委員会名	杉戸町放課後子供総合プラン運営委員会		
構成役職 (合計16名)	放課後子供教室代表6名、地域住民代表1名、PTA関係者2名、学校関係者3名、放課後児童クラブ担当2名、学校教育課長、社会教育課長		
検討内容	放課後子供プランの実施状況の報告、放課後子供総合プラン実施計画、杉戸町放課後子供教室事業予算等		
放課後子供教室 実施教室数	3教室	放課後児童クラブ 箇所数	7箇所
対象学区	6校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 3教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	25日
コーディネーター数	4人	ボランティア数	21人

### 教室紹介

教室名	杉戸第三小学校放課後子供教室	活動場所	余裕教室、体育館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 62人 1日平均参加者数 34人
活動内容	七夕工作(ジェルキャンドル)、お菓子作り、ソフトテニス、県立杉戸農業高等学校並びに杉戸警察署見学・体験学習等、ハロウィン工作(プラバン)他		
連携団体	南放課後児童クラブ、県立杉戸農業高等学校、杉戸警察署、ソフトテニス指導者、杉戸町スポーツ推進委員連絡協議会等		
活動の成果	<p>町内で放課後子供教室は3校で「わくわく教室」の愛称のもと実施しており、3校とも、放課後児童クラブとの連携事業を行った。今年度、第三小学校では体育館での「ポッチャ、ディスクゴルフ体験」を行った。</p> <p>また、教室では、学年により二つのクラス別けをし、七夕工作、ソフトテニス、焼き芋パーティー、お菓子作り、大根パーティー、ハロウィン工作、クリスマスカード・年賀状作りなどのほかに、町内の県立杉戸農業高等学校、杉戸警察署での見学・体験学習を実施した。</p> <p>ボランティアとして参加児童の保護者の方々やスポーツ推進委員、ソフトテニス指導者、施設見学では、訪問先である県立杉戸農業高等学校、杉戸警察署の職員の方々の協力を得て、多様な体験活動を提供することができた。</p>		



ポッチャ、ディスクゴルフ体験に参加している放課後子供教室と放課後児童クラブの児童



【県立杉戸農業高等学校見学・体験学習】校内の施設で飼育している牛・馬の見学をしている様子

## 松 伏 町 (3校)

運営委員会名	金杉小学校放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計9名)	教育長1名、放課後子ども教室代表2名、学童クラブ本部長1名、PTA会長1名、学校応援団1名、学校長1名、教育文化振興課2名		
検討内容	放課後子ども教室の運営状況 在籍状況、活動内容、指導員の状況、学童クラブとの連携、課題と対応		
放課後子供教室 実施教室数	1教室	放課後児童クラブ 箇所数	6箇所
対象学区	1校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	61日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	0人

### 教室紹介

教室名	金杉小学校放課後子ども教室	活動場所	余裕教室、体育館、校庭
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 28人 1日平均参加者数 23人
活動内容	宿題、21世紀埼玉郷土かるた、ドッジビー、昔の遊び、シャボン玉		
連携団体	学校応援団、B&G海洋センター、		
活動の成果	<p>活動は前半・宿題、後半・スポーツ活動を行っている。宿題が終わった後、AETが加わり英語活動を行ったり、21世紀郷土かるたを行っている。またスポーツ活動では中学生が3デイズ活動で放課後教室に参加し、子ども達と「ドッジビー」を行い好評だった。</p> <p>地域の指導者を招き、放課後学童クラブと連携し「スナッグゴルフ」を行った。学童クラブにはスナッグゴルフ開催のポスターを掲示し参加を呼びかけた。3日間の開催で学童クラブからはのべ15名の参加があり、楽しく交流ができた。</p> <p>活動終了の16:30後、児童の安全な下校のため保護者のお迎えを必須としている。これまで大きな事件や事故もなく安全な活動が行われている。</p>		



3デイズで訪問した中学生3人対小学生25人でドッジビーの対戦。盛り上がりました。

【21世紀郷土かるた】子どもが読み手となり班の人たちで札を取り合います。

## 「放課後の居場所づくり推進事業」について

### 1 概要

平成29年3月の社会教育法改正により、学校を核とした地域の創生を目指した「地域学校協働活動」が新たに法的に規定されるなど、子供を取り巻く環境の困難化、複雑化を踏まえ、学校・家庭・地域全体で教育に取り組む体制づくりが求められている。

一方、地域人材の確保が困難であるため、学校施設の活用など、児童の放課後の居場所づくりに課題を抱える市町村がある。

そこで、人材の確保に課題を抱えているため、実施日数や教室の拡大ができない市町村に対して、アドバイザーを市町村負担なしで配置する。

### 2 事業内容

#### (1) アドバイザーの業務（例）

- ① 地域人材の掘り起し
  - ・NPO や子ども大学関係者等を訪問し、プログラムへの協力依頼
  - ・福祉部局と連携し、民生委員等の会議や高齢者大学での情報提供
- ② 市町村と地域人材との連携の働きかけ
  - ・掘り起こした人材と市町村職員の方との橋渡し役
- ③ 学校との調整
  - ・実施校の管理職等と打合せを行うなど、実施拡大に向けた調整

#### (2) アドバイザーの担い手

- ① 放課後子供教室コーディネーター経験者
- ② 放課後子供教室の運営経験を有するNPOの職員等

### 3 平成30年度実施市町

#### ○志木市教育委員会

- ・アドバイザーを2名配置
- ・開催日数の拡大（週3日→週5日）に向けた人材の確保及びコーディネート

#### ○和光市教育委員会（参加児童数の拡大）

- ・アドバイザーを1名配置
- ・多くの子供たちが参加できるプログラムを担う人材の発掘

#### ○小川町教育委員会

- ・アドバイザーを1名配置
- ・平成31年度新規教室開設（1教室）に向けた人材の確保

#### ○行田市教育委員会

- ・アドバイザーを6名配置
- ・平成31年度新規教室開設（5教室）に向けた人材の確保

#### ○松伏町教育委員会

- ・アドバイザーを1名配置
- ・開催日数の拡大に向けた人材の確保

## 志木市 放課後の居場所づくり推進事業

### 1 放課後子供教室の概要（志木市の概要）

本市では、全8小学校のうち、3校で放課後子供教室を実施している。放課後の安心・安全な居場所づくりのため、年々拡大を図っている。平成30年度新規開室校の宗岡第四小学校では、学童保育クラブと放課後子供教室に参加するすべての児童が平日17時まで同じ活動をする一体化の活動（放課後志木っ子タイム）を年間約200日1つの事業者で実施している。

また、志木第四小学校では、平成29年度週3回実施していたものを、平成30年度は平日月曜日から金曜日の週5回と夏休みの実施に拡大し、毎日40人程度が参加している。

平成32年度までにすべての小学校で放課後志木っ子タイムを導入する予定である。

### 2 事業活用の経緯

本市の放課後子供教室事業の計画は、すべての学校で平日毎日開催することとしている。今年度の志木第四小学校は、従来の週3回から週5回と夏休みの開催に大きく拡大するため現場の活動を統括する立場の役職であるアドバイザーが必要となる。日数拡大により、年間計画、シフト管理、スタッフ確保などの業務量の増加に伴いアドバイザーとして、管理業務に従事してもらうこととなる。また、日数の拡大に伴いプログラムの充実を図るため企画立案から人材選定に重点的に取り組む必要があるため本事業を活用させていただいた。

### 3 アドバイザーの担い手と主な活動（勤務形態）

志木第四小学校放課後子供教室

アドバイザー A氏

志木市放課後総合プラン運営委員会 委員

- ・統括コーディネーターとして従事  
1日約3時間 月15日程度
- ・教室スタッフのシフト管理、
- ・通信誌面作成、
- ・プログラム企画立案、
- ・講師選定など

アドバイザー B氏

- ・統括コーディネーターとして従事  
1日約3時間 月10日程度
- ・教室スタッフのシフト管理、
- ・教室運営会計など



ホンダアシモ作り  
プログラム

#### 4 活動内容

- A氏・・・日数拡大に伴いプログラムの充実を積極的に企画  
「くらりか実験教室」「世界のボードゲーム体験」「HONDAasimo 作成」  
多数の企業や地元サークル団体などに協力依頼
- B氏・・・A氏と同様に多数の企業や地元サークルに協力依頼  
会計管理者としてスタッフや講師への謝金対応などを行う

#### 5 成果

志木第四小学校放課後子供教室は、前年度8人体制だったスタッフに7人を加えた15人で運営している。また前年度に比べ5プログラム、10人の講師が増え、10プログラム17名の講師に協力していただいている。平成29年度の週3回（月水木曜日）開催から学校のある日はいつでも子どもたちが直接参加できる場所に拡大したことによって、前年度は20人ほどの参加だったが、今年度は毎日30～40人ほどの参加と増加している。

また、日々のプログラムについては、学期の終わりなどに発表の場を作ることで、児童のやる気や意識を高めている。

放課後子供教室で迎えてくれるのは、ほとんどが地元の方々であり、児童は様々な世代と交流ができ、地域の方々に見守られ、育まれている。



普段の教室の様子



英語教室プログラム

## 和光市 放課後の居場所づくり推進事業

### 1 放課後子供教室の概要（和光市の概要）

和光市子ども教室は放課後に小学校の余裕教室等を活用し、安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちに勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかにはぐくまれる環境づくりを推進することを目的に「わこうっこクラブ」と「子ども教室」を開催している。

#### <わこうっこクラブ>

児童が教育活動サポーターの見守りのもと、宿題・自主学习・室内遊び・外遊び等をして放課後を安全に過ごす場所として市内5校で平日は毎日開催している。

#### <子ども教室>

児童に勉強やスポーツ、文化活動などの機会を提供する。工作教室、理科実験教室、かきかた教室、英語教室、ドッジボール、ゴムボール野球、バスケットボール教室などを市内全小学校9校で月2回～3回開催している。



わこうっこクラブ風景



子ども教室「サッカー」風景

### 2 事業活用の経緯

和光市の放課後子ども教室事業は「わこうっこクラブ」を平成32年度までに全校で実施する計画とし、「子ども教室」も継続的に全校で実施していく計画となっているが、指導者不足やプログラムのマンネリ化等の課題がある。多くの子どもたちが参加でき、また魅力あるプログラムを企画・検討するため統括コーディネーターを配置する。

### 3 アドバイザーの担い手と主な活動（勤務形態）

子ども教室コーディネーターのうち1名を統括コーディネーターと任命し、以下の活動を依頼した。月20時間程度、活動している。

- ①コーディネーターの統括
- ②コーディネーター、市との連絡・調整

- ③学校、学童クラブ、保護者等との連絡・調整
- ④安全管理方策
- ⑤広報活動方策
- ⑥人材確保
- ⑦総合的な調整役

#### 4 活動内容

- ・毎月開催される定例コーディネーター会議において、各会場から出た諸問題等の検討・対策案を示し、共通理解を図った。
- ・指導者発掘として地域に出向き、人材を確保した。
- ・会議の場以外においても市との打合せを重ね、その結果をコーディネーターへ伝達した。
- ・各学校に出向き、学校・学童クラブ・保護者とのコミュニケーションを積極的に図り、些細なことまで調整した。
- ・安全面での現場チェック、教室間移動の動線等児童が安全に過ごせる場となっているか確認した。
- ・誰でも参加できるプログラムとして無料のプログラムを企画した。また、定員を設けないプログラムを企画し、多くの参加児童を受け入れた。

#### 5 成果

参加費無料のプログラムや多くの児童を受け入れることのできるプログラムを増やし、誰でも参加できるプログラムを企画した。1例として、地域に住む若い音楽家を指導者として開催した「ミニコンサート&ワークショップ」には、31名（1教室平均参加人数：22人）が参加した。感染症が流行する時期に多くの児童が参加したことは成果であり、多くの子ども達の居場所の拡大に繋がった。

統括コーディネーターは頻繁に各学校に出向き、子どもを始めとする関係者の声に耳を傾け、各学校の雰囲気を感じ取ることを心がけた結果、子どもたちの要望に添ったプログラムを提供し、結果、プログラムの充実に繋がった。



**小川町 放課後の居場所づくり推進事業**

**1 放課後子供教室の概要（小川町の概要）**

小川町では、平成30年度、全6小学校のうち2小学校で放課後子供教室を実施している。各教室は、余裕教室を活用し、1部屋を専用の教室として使用している。当該の部屋にエアコンを取り付け、10畳程度の畳を敷き、机を配置して活動している。さらに、学校側の理解をいただき、もう1部屋をシェア教室として利用している。

1年生から6年生までの全児童を対象とし、1教室平均56名の児童が参加している。参加傾向としては、1年生から3年生までが全体の約8割を占めている。

小川町では、「放課後子ども総合プラン」の内容を次世代育成支援行動計画の中に含んで策定し、一体的な推進を図っている。放課後の児童の安全・安心な居場所づくり、よりよい体験の支援、地域の活性化をめざして取り組んでいるところである。

**2 事業活用の経緯**

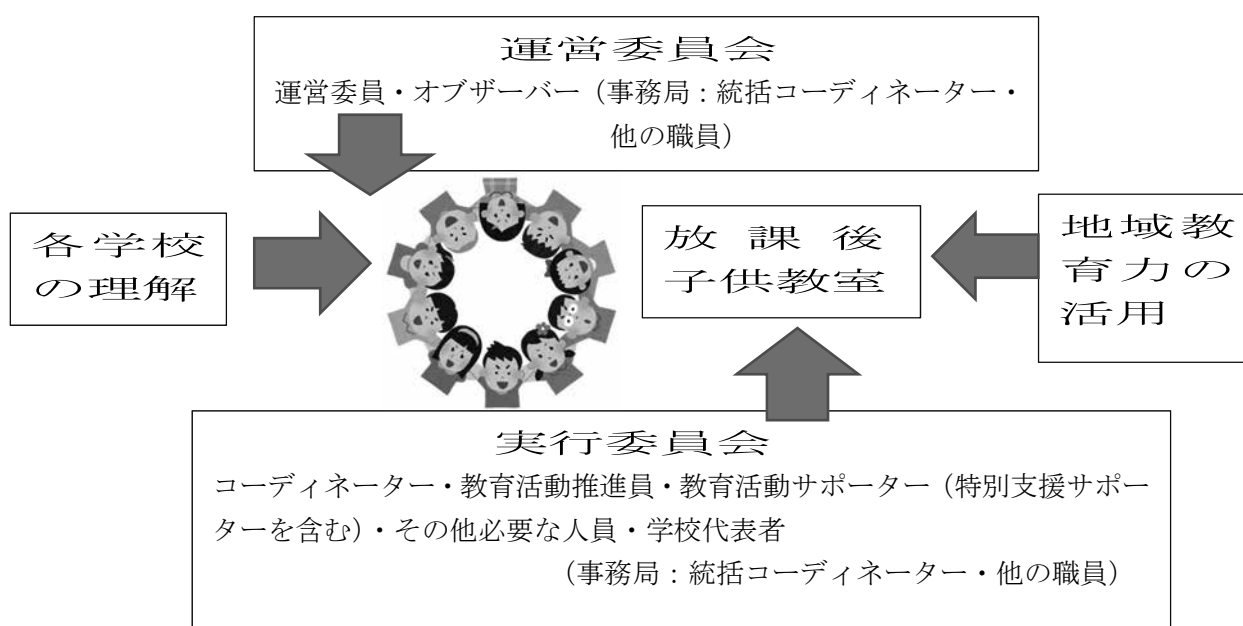
小川町の計画では、平成29年度から平成31年度まで、放課後子供教室を1教室ずつ合計3教室立ち上げる計画である。

平成30年度現在、すでに2教室が活動を開始し、平成31年度3校目の開設に向けて、準備をしているところである。

3校目の開設に向けては、開設校との調整、保護者への説明、備品・消耗品購入の準備等がある。懸案事項としては、有為なスタッフ人材の確保が課題である。町広報への掲載、関係者への呼びかけ等を行い、12名のスタッフ人材を確保することができた。採用にあたっては教育委員会で全員の面接を行い、登録台帳に記載し、現在、開設に向けて8回の実行委員会を実施した。小学校の管理職経験者をコーディネーターとして登録し、よりよい実行委員会の実施に尽力しているところである。

小川町の放課後子供教室運営は、おおよそ以下の組織図のとおりである。

＜小川町放課後運営の組織図＞



第5「放課後子供教室推進事業」の実践事例（実施市町の取組）



### 3 アドバイザーの担い手と主な活動（勤務形態）

小川町放課後子供教室

おおかわキッズ・あこすおがわ・みどりが丘小（平成31年度開設予定）

アドバイザー A氏

- ・統括コーディネーター（1名）として雇用 1日7時間、月12日
- ・すでに開設している2校スタッフの謝金支払い、備品・消耗品購入、特別活動講師依頼、学校側との調整、保護者説明会の実施、けがや事故対応への保険加入、通常活動の支援等
- ・開設予定校のスタッフ人材確保、実行委員会開催事務（15回）、学校側との調整、備品・消耗品購入、保護者説明会の実施、運営委員会開催事務（年3回程度）

### 4 活動内容

A氏の取組

（1）平成31年度開設予定校の立ち上げに向け、スタッフ人材の確保、15回の実行委員会開催事務に取り組んでいる。

- 町広報にスタッフ募集記事を掲載
- 学校教育課においてスタッフ希望者全員の面接を計画・実施
- 15回の実行委員会計画案を作成（基本方針、名称決定、開設校2校の視察、救命講習、防犯訓練等）

（2）開設予定校との調整を行っている。

- 専用教室、シェア教室についての管理職との話し合い
- 入学説明会における新入学児童保護者への説明
- 備品・消耗品等の搬入予定計画等



＜書き初めの取組＞



＜ハロウィーンの衣装で隣の保育園を訪問＞



＜箏の体験活動＞

### 5 成果

実行委員会の回を重ねるごとに、12名の実行委員がよりよい意見交換ができるようになってきている。教室づくりへの思いを意見交換し、教室の約束づくりをとおり、一人一人のスタッフの自覚が増してきている。

平成31年度は、週1回毎週木曜日、年間32回の教室開室を予定している。特別の活動として、手作りおもちゃづくり、日本の伝統芸能に親しむ取組、英語活動等を計画している。

安全・安心な居場所づくりを基盤に、よりよい体験の支援を充実させ、参加児童、保護者、スタッフにもさらに笑顔が増えるような教室づくりに邁進していきたいと考えている。

**行田市 放課後の居場所づくり推進事業**

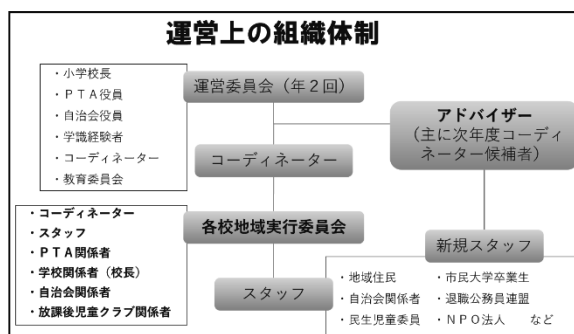
**1 放課後子ども教室の概要（行田市の概要）**

本市は、全16小学校のうち6校で放課後子ども教室を実施している。各教室では、小学校の特別教室や余裕教室を活用したり、近隣の地域公民館を活用したりして開催している。主に1年生から3年生までを対象に実施しており、1校当たり平均35名程度が参加している。これは、全児童数の約5.5%が参加していることになる。

本市では、「行田市放課後子ども総合プラン」を策定し、放課後の児童の安全・安心な居場所の確保とともに、地域人財を生かした地域の活性化に努めている。

**2 事業活用の経緯**

行田市放課後子ども総合プランでは、平成27年度から隔年1教室ずつの着実な拡大をめざし、平成31年度までに新たに2教室を開室する計画となっていた。今年度すでに目標は達成されたが、市内全小学校での開室に向けてさらなる拡大を図るため、本事業を活用した。



また、実施校の増加に伴い、これまでの教育委員会主導による教室運営から、地域の方々を主体とする運営への転換を図り、学校・家庭と連携した協働組織を立ち上げ、自立型の運営を目指している。そのために、地域の中から新規教室のコーディネーター候補者をアドバイザーとして委嘱し、スタッフの確保、学校との調整、スタッフ会議の進行等を行った。

**3 アドバイザーの担い手と主な活動（勤務形態）**

- ① 平成31年度開設予定（中央、埼玉、太田西、泉、南河原）小学校放課後子ども教室
  - アドバイザー 中央小A氏（元市役所職員、民生児童委員）
  - 中央小B氏（地区青少年育成会長、学校運営協議会委員、元PTA会長）
  - 埼玉小C氏（地区前自治会長、学校応援団員）
  - 太田西小D氏（地区自治会長、地区青少年育成会長、学校応援団員）
  - 泉小E氏（地区自治会長、学校運営協議会長、学校応援団員）
  - 南河原小F氏（元小学校教諭）

・新規教室の人材確保、スタッフ会議の開催、プログラム内容の選定、学校との連絡調整

- ② 行田市放課後子ども教室
  - 統括アドバイザー G氏（北小学校放課後子ども教室スタッフ、行田市民大学運営部長）
  - ・人財情報の提供、スタッフ候補者説明会での助言、新規スタッフ研修会の実施

**4 活動内容**

A・B氏・・・中央小学校区の民生委児童委員会等で協力依頼。  
中央小学校区の全家庭に回覧するスタッフ募集チラシの作成。

第5「放課後子ども教室推進事業」の実践事例（実施市町の取組）

実施校の活動状況を視察。  
 放課後児童支援員研修会への参加。  
 運営委員会にオブザーバーとして参加。  
 スタッフ会議の開催。

C氏・・・埼玉小学校区の公民館サロン等で協力依頼。  
 運営委員会にオブザーバーとして参加。  
 実施校の活動状況を視察。  
 スタッフ会議の開催。

D氏・・・太田西小学校学校応援団会議等で協力依頼。  
 埼玉県コーディネーター研修会へ参加。  
 実施校の活動状況を視察。  
 スタッフ会議の開催。

E氏・・・泉小学校区の自治会等で協力依頼。  
 行田市民大学卒業生への協力依頼。  
 泉小学校区の全家庭に回覧するスタッフ募集チラシの作成。  
 実施校の活動状況を視察。  
 スタッフ会議の開催。

F氏・・・南河原小学校区の地域住民へ協力依頼。  
 運営委員会にオブザーバーとして参加。  
 実施校の活動状況を視察。  
 スタッフ会議の開催。

G氏・・・行田市民大学卒業生の人財情報を中央小、泉小のアドバイザーへ提供。  
 東部地区学校・家庭・地域連携実践発表会で発表。  
 埼玉県コーディネーター研修会へ参加。  
 新規スタッフ研修会で運営マニュアル、安全管理マニュアルの説明。

## 5 成果

現在、新規教室5校の放課後子ども教室スタッフは、約70名集まっている。また、年間活動計画もできあがり、1月末から2月に行われる新入児童入学説明会で、保護者に向けて概要を説明するとともに、在校児童へ参加募集を行った。



〔埼玉県コーディネーター研修会〕



〔アドバイザーとコーディネーターの情報交換会〕

## 松伏町 放課後の居場所づくり推進事業

### 1 放課後子供教室の概要（松伏町の概要）

本町では平成29年度から小学校3校のうち1校で放課後子ども教室を実施している。設置校は小規模校であるため、小規模特認校として認可され、教育委員会ではその支援策の一つとして放課後子ども教室を設置した。教室の場所は、放課後の学校施設の管理上の問題に配慮し、校舎1階の余裕教室を活用している。ここは児童の外からの移動に便利なこと、トイレや水のみ場に近いかもあり最適な場所となっている。

放課後子ども教室の人数は、1年生から6年生までの児童を対象に、教室の利用可能人数30人以内で募集している。児童の帰宅時の安全のため、保護者の迎えを条件としている。学校が田園地帯にあり、これまでに不審者出没の情報もあったため、児童の安全確保のため「保護者の迎え」を必須の条件としている。

本町では、「松伏町放課後子ども総合プラン行動計画」を定め、放課後の児童の安心・安全な居場所の確保に努めている。

### 2 事業活用の経緯

松伏町放課後子ども総合プラン行動計画では、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型による活動を行うこととしている。また、他の2小学校での放課後子ども教室の実施を謳っている。この方針を受けての課題は、①コーディネータースタッフの確保、②放課後子ども教室指導員の確保、③放課後子ども教室開催日数の拡大、等であった。本町では特に、②指導員の不足が課題であった。これが解消されると③の教室開催日数の拡大も可能となる。この課題を解決するため、アドバイザーを配置し、人材の発掘を強力に推し進め、課題の解決に取り組むこととした。具体的には、統括コーディネーターを配置し、コーディネーター等のスタッフの確保や指導員の発掘に努め、放課後子ども教室の指導内容の充実と開催日数の拡大を目指した。

### 3 アドバイザーの担い手と主な活動（勤務形態）

金杉小学校放課後子ども教室（平成29年度開設）

アドバイザー A氏（社会教育指導員、金杉小学校放課後子ども教室コーディネーター）

- ・統括コーディネーターとして雇用 年間77回以内、92時間以内での活動
- ・人材開拓（学校や公民館、体育施設等の訪問・情報交換・連絡協議）
- ・報告資料作成（定例教育委員会・運営委員会報告用）
- ・放課後子ども教室開催日数の拡大
- ・広報活動（町内各施設訪問）

### 4 活動内容（A氏）

- ・町の施設「B&G海洋センター」、町の公民館「多世代交流学習館」を訪問し意見交換
- ・施設の職員に活動内容の紹介、体験指導者の情報提供依頼・指導者の候補者の推薦依頼
- ・地域住民との懇談で人材発掘・確保（本年度途中から指導員として活動）

- ・学校応援団に依頼し、子どもたちにスポーツ活動を体験させた（学童クラブとの共通活動として行った）
- ・電話にて住民に活動内容紹介
- ・金杉小学校放課後学童クラブ訪問。交流活動行事紹介のポスター掲示
- ・金杉小学校校長、職員との意見交換

## 5 成果

- ・現在、金杉小学校放課後子ども教室スタッフは10名集まっている。前年度に比べて2名の増となった。これにより、児童への手厚い対応が可能となった。
- ・開催日数の拡大。前年度51日の開催。今年度は61日の開催予定となった。
- ・町広報への記事掲載。金杉小学校の紹介の中に「放課後子ども教室」の活動が取り上げられ、広く町民に紹介されることとなった。
- ・地域との連携。金杉小学校学校応援団の方を中心に地域の方々が協力し、「スナッグゴルフ」を子ども達に体験させてくれた。学童クラブにも呼びかけ、合同での体験活動となった。
- ・学校との連携・協力体制の充実⇒学校では緊急時のメール送信に「放課後子ども教室の対応」を盛りこんでくれる事になった。また、放課後子ども教室指導員にもメール送信し、災害等の緊急時の学校の対応や放課後子ども教室の開催等について、情報を伝えてくれる事になった。保健室では体調をくずした児童の対応をしてくれ、児童の安心や保護者の安心感を高めることにもなった。



＊地域の方の指導による放課後子ども教室・学童クラブ合同行事「スナッグゴルフ」

# 上尾市

実施教室数	6教室	対象学校	全小・中学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	4日
コーディネーター数	6人	ボランティア数	0人

## 教室紹介

教室名	上平公民館子ども教室	活動場所	上平公民館 他
参加対象	小中学生と保護者	参加者数 (1日平均)	20人
活動内容	公民館で体験しようというテーマで学校の先生以外の大人の指導により様々な体験的な学習をしている。 将棋教室～未来の竜王・名人をめざそう！～ 造型教室～世界にひとつだけの怪獣を作ろう～ 理科教室～プラネタリウムを作ろう～ 職業体験教室～警察官になってみよう～		
連携団体	上平将棋クラブ、将棋研修会、造型工房キトラ代表・原型師 岡 健之 日本工業大学工学部共通教育系物理研究室教授 佐藤 杉弥、上尾警察署		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館の将棋サークルに将棋を指導してもらうことで、地域の大人と子どもの交流が図れた。</li> <li>・怪獣を造形するプロから技法を学び、難しいながらオリジナルな紙粘土の怪獣ができた。</li> <li>・宇宙物理学の専門家から宇宙の不思議を学び、1人1人がプラネタリウムを完成することが出来た。</li> <li>・上尾警察署の協力により警察官の仕事が体験できた。</li> </ul>		

第5「放課後子ども教室推進事業」の実践事例（実施市町の取組）



【将棋】



【パトカー体験】

# 藤 市

実施教室数	7教室	対象学校	全小学校
主な対象学年	3～6年	平均開催日数	21日
コーディネーター数	7人	ボランティア数	115人

## 教室紹介

教室名	キラリ 中東っ子土曜塾 (中央東小学校区わらび学校土曜塾)	活動場所	ふれあいルーム (余裕教室)
参加対象	3～6年	参加者数 (1日平均)	25人
活動内容	<p>行政・家庭・地域が連携協力し、子どもを育む環境づくりを推進する。児童の自主的な学習(宿題・課題・ものづくり)をサポートし、子どもたちに集中して学ぶ大切さや楽しさを教え、学習習慣の定着や基礎学力の向上を図っている。</p> <p>元教員の方が全体を統括する塾長(コーディネーター)を担っている。宿題やドリルのわからない所を教える学習アドバイザーは元教員や大学生(卒業生)が務め、出入り口の管理等を行う安全管理員(見守り役)は元PTAの方から協力を得ている。</p> <p>百マス計算や熟語クイズ、理科実験等、遊びの中に学習を取り入れることで、楽しみながら学べるだけでなく、新しい発見の機会を創出している。</p>		
連携団体	地域の方		
活動の成果	<p>元教員の方が塾長や学習アドバイザーを務めているため、学習面でのサポートはもちろんのこと、学校との連絡調整等が大変スムーズである。通いなれている学校を会場にしているので、参加者も安心して学ぶことができる環境にあるといえる。</p> <p>【参加者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家とは違う快適な環境で勉強できて、集中力を身に付けることができた。計画的に勉強することも学べた。</li> <li>・勉強が好きになったのは土曜塾と土曜塾の先生のおかげだ。</li> </ul> <p>【保護者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が上がるにつれ、子どもが理解できるよう教えることが難しくなってきたが、土曜塾では、先生方がわかりやすく教えてくださるので親として大変心強い。また、大学生スタッフから様々な影響を受けているようで、『なぜ勉強するのか』など、勉強だけでなく、大切なことも学ばせていただいた。</li> <li>・土曜塾に行くと宿題も終わり、日曜日はゆっくりと余裕で遊んでいる。理科実験の日は、身も心も弾んで登校し、帰宅するととても楽しそうに作り方や遊び方を説明してくれるので、私まで楽しくなった。</li> </ul>		



【個々に応じた丁寧な学習指導】



【お楽しみ♪理科実験】

## 朝霞市

実施教室数	6教室	対象学校	6小学校
主な対象学年	小学生全学年 (一部教室に学年指定有)	平均開催日数	12日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	53人

### 教室紹介

教室名	おもしろ工作教室	活動場所	多目的室
参加対象	全学年	参加者数 (1日平均)	25人
活動内容	<p>本教室は平成29年度から新たに実施した教室だが、初年度から応募が多く今年度も昨年度に引き続き定員数を越える応募があり、現在市内6校で行っている教室の中でも人気の教室になっている。</p> <p>講師は、地域の子育て支援活動をされている方々に御協力をいただいている。子供たちに工作への興味を持ってもらえるよう、始める前に製作品の実物紹介とデモンストレーションを行い製作品への関心、具体的なイメージを持ってもらえるようにしたり、全12回のカリキュラムで毎回違った作品を作るなど工夫した教室を行っている。</p> <p>教室では工作により作品を作る喜び、遊ぶ楽しさを知ってもらうだけでなく、作るために必要な道具や工具の安全で正しい使い方も覚えてもらえるよう注意を払いながら指導している。</p>		
連携団体	おもしろ工作教室		
活動の成果	<p>低学年の参加者が多いが、講師が説明している時は皆話を真剣に聞き、集中している姿勢が見えた。また、難しい箇所やわからない所を講師に確認したり、同じテーブルの子供同士で相談・協力しながら行っていた。</p> <p>入手しやすい素材を活用し、家庭でも作成できる内容のものを取り上げることで、子供たちに工作への興味を持ってもらえたようである。子供や保護から「教室に行くのを楽しみにしている。」との声を多くいただき、子供たちが工作を通じて教室を楽しんでいる事が伺えた。</p> <p>教室では市内の各小学校から子供が参加しているため、教室を通して他校の友達ができたり、子供が作った工作を話題に家族の会話がされている。工作の楽しさや技術の習得だけでなく様々なコミュニケーションの場にもなっていることから、今後もこの事業を継続して実施していきたい。</p>		



【牛乳パック工作の様子】



【紙飛行機工作の様子】



# 新 座 市

実施教室数	17教室	対象学校	全小学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	13日
コーディネーター数	6人	ボランティア数	271人

## 教室紹介

教室名	星空博士	活動場所	ランチルーム、児童センター
参加対象	全学年	参加者数 (1日平均)	18人
活動内容	1回目	星座のことを調べてみよう（星座早見盤の作成と方位磁針の使い方）	
	2回目	七夕のことを調べてみよう（七夕飾りの作成と笹への飾り付け）	
	3回目	プラネタリウムの解説にチャレンジ！（プラネタリウム上映実習）	
	4回目	月のことを調べてみよう（月模型の作成）	
	5回目	太陽のことを調べてみよう（日時計の作成と太陽の動きの観察）	
	6回目	太陽系の大きさを感じてみよう（惑星模型の作成と太陽・惑星間の距離を実感）	
	7回目	日食と月食のことを調べてみよう（実験により日・月食の仕組みを理解）	
	8回目	星座を奏てみよう（コンピューターミュージックのパソコンソフトを使用し、五線譜に星座の形を入力して演奏）	
	9回目	星座の過去と未来（地球と恒星間の距離を実感できる模型を作成）	
	10回目	星空のクイズ大会（クイズ形式により理解度・知識の定着を確認）	
連携団体	新座星空クラブ（主に新座市児童センターで活動する天文同好会）		
活動の成果	<p>参加児童は、「星空研究所」の研究者として、毎回ミッション（研究テーマ）を調査・体験しながら、星空や宇宙に関することを学んだ。理科に興味を持つ児童が多く、模型の作成（ペーパークラフト）や実験に積極的に取り組んでいた。</p> <p>また、グループ討論では高学年の児童がリードして班をまとめており、各班員も積極的に意見を出していた。</p> <p>各回の終了時には、「研究修了証」（図柄は講師撮影の天体写真で、各回異なる。）を一人一人に手渡したことにより、達成感と次回への参加意欲が出たようである。</p> <p>さらに、児童センター及び新座星空クラブとの連携を図り、もっと学習したい児童のために、同センターで開催するプラネタリウム上映や星空観察会を案内したところ、参加する児童も多かった。</p>		



【太陽系の大きさを感じてみよう】  
惑星模型の作成



【日食と月食のことを調べてみよう】  
日食・月食が起こる仕組みの実験

## 北本市

実施教室数	12教室	対象学校	全小・中学校
主な対象学年	1～6年(小)、3年(中)	平均開催日数	10日
コーディネーター数	12人	ボランティア数	200人

### 教室紹介

教室名	小学校土曜補習事業（算数）	活動場所	教室、特別教室
参加対象	1～6年	参加者数 （1日平均）	約40人
活動内容	<p>○取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コバトン問題集を活用した授業</li> <li>・計算ドリルを活用した授業</li> <li>・習熟度別に分けた補充問題を活用した授業</li> <li>・単元テストを再度解いてみて解説する授業</li> <li>・長期休み中の宿題を支援する授業</li> </ul> <p>○工夫した点・ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面談や家庭訪問をとおして、学習支援の必要な児童に声をかけ、不足している基礎学力を補充できるようにしている。</li> <li>・解き方や考え方、解答などについて、お互いに質問や助言をし合うといった「学び合い活動」を取り入れることで、様々な考え方に触れることができるとともに、友だちと楽しみながら学習に取り組めるよう工夫している。</li> <li>・高学年の場合、予め解答を用意しておき、課題を早く終えた児童が自主的に答え合わせできるようにすることで、サポートが必要な児童に対して重点的に支援することができるように工夫している。自主的に答え合わせをした児童に対しても別に時間を設け、分からなかったところに対して助言できるようにしている。</li> </ul>		
連携団体	特になし		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九九や割り算の筆算など、発達段階に応じた基礎学力が確実に身に付いた。</li> <li>・学力に不安のある児童にとって、定期的に土曜日に学校へ来て学習することによって、学習する習慣が身に付いた。</li> <li>・考え方や解き方について、先生から個別に教えてもらったり、児童どうして「学び合い活動」を行ったりすることで、課題解決力が身に付いた。</li> <li>・学校で用意した補充問題を多めに持ち帰って自主学習に活用する児童も見受けられるなど、学習への意欲付けにつながった。</li> <li>・今後は、参加する児童一人一人に対応した事前準備をより一層充実させ、より効果のある活動にしていくことが必要である。</li> </ul>		

第5「放課後子ども教室推進事業」の実践事例（実施市町の取組）



【答えの確認及び助言の様子（石戸小学校）】



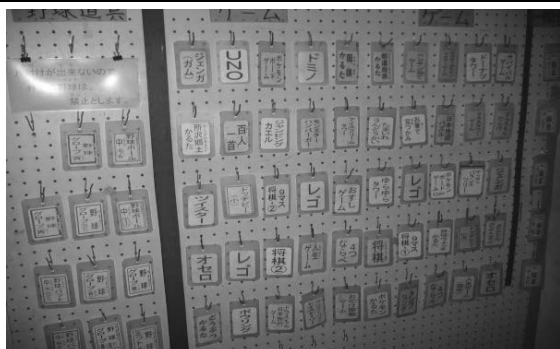
【個別学習の支援の様子（栄小学校）】

# 所 沢 市

実施教室数	1教室	対象学校	1小学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	20日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	57人

## 教室紹介

教室名	所沢市放課後支援事業 (所沢小学校ほうかごところ)	活動場所	体育館を中心に実施
参加対象	全学年	参加者数 (1日平均)	12人
活動内容	<p>○土曜日活動の様子 保護者の要望により、平成18年度より土曜日の活動を実施している。活動時間は、学校開放活動が使用していない午前中(9時~12時)に、体育館を主な活動場所としている。長期休業中及び1月~3月は土曜日の活動を休止している。</p> <p>○特色ある活動の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館を活用した活動 土曜日は参加人数が少ないが、活動場所も限られているので、スタッフの目が行き届いた見守りができている。子供たちは、異年齢と積極的に交流し、思いっきり体を動かしている。</li> <li>・理科実験教室 学校の理科室を借用し、“ほうかごところ”開設当時の校長先生が様々な実験を行う「理科実験教室」を開催した。</li> </ul>		
連携団体	秋草学園短期大学地域保育科の1年生(42名のボランティア)		
活動の成果	<p>土曜日の活動では、参加人数は少ないものの、子供たちが積極的に関わり合い、異年齢での遊びを通じた交流を行っている。活動の中で帰宅時間・約束した時間について年令なりの意識が生まれ、子供たちの心や体の成長に役立っている活動となっている。</p> <p>理科実験教室は、平成27年度に新たな企画として開始し、平成29年度においては3回開催した。毎回申込が定員を超える人気の教室となっており、追加開催を行った。4・5年生を対象に行った「電池を作ってオルゴールをならそう」では2日間で合計59名が参加した。</p> <p>開設から15年が経ち、卒業生が大学生になってスタッフに入ったり、中学生・高校生がボランティアスタッフとして手伝いに来てくれたりするようになっていく。「地域の子供は地域で育てる」という地域の教育力を生かした、「地域立」の考えをもとにした“ほうかごところ”を実施することができている。</p>		



【遊び道具貸出カード】  
ひと目で利用状況が分かる



【理科実験教室】  
新しい発見で児童が釘付けになる実験教室

## 東松山市

実施教室数	2教室	対象学校	2小学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	12日
コーディネーター数	4人	ボランティア数	約10人

### 教室紹介

教室名	土曜日寺子屋	活動場所	唐子市民活動センター
参加対象	小学校1・2年	参加者数 (1日平均)	13人
活動内容	<p>児童は、それぞれが持ち込んだ教材（主に国語や算数のドリル・プリント等）で自主学習を行っている。児童がわからない問題があり、困っている時には、ボランティアが声をかけ、学習支援を行っている。</p> <p><b>【学習の流れ】</b></p> <p>9：30～10：15 勉強①</p> <p>10：15～10：30 休み時間</p> <p>10：30～11：10 勉強②</p> <p>11：10～11：15 片づけ</p> <p>11：15～11：25 レクの時間</p> <p>11：25～11：30 連絡</p> <p>11：30 終了</p>		
連携団体			
活動の成果	<p>児童はボランティアの支援のもと、「わかった」「できた」という喜びを味わうことができ、基礎・基本の定着につながってきている。</p> <p>コーディネーターやボランティアと児童との信頼関係が深まり、楽しく安心して学べる環境がつくられた。</p> <p>保護者から「以前に比べて、家でも自分から進んで学習するようになった」との声もあり、少しずつ基本的な学習習慣が定着してきている。</p>		



【ボランティアによる個別指導】



【土曜日寺子屋開講式】

## ふじみ野市

実施教室数	6教室	対象学校	全小・中学校
主な対象学年	小5・6年、中3年	平均開催日数	16日
コーディネーター数	0人	ボランティア数	26人

## 教室紹介

教室名	ふじみ野市寺子屋（小学校コース・中学校コース）	活動場所	東台小、市内公民館、勤労福祉センター、まちづくり会館
参加対象	小5・6年、中3年	参加者数 （1日平均）	136人
活動内容	<p>参加した生徒の自主学習を基本とし、生徒からの質問を受けたり、講師が用意したプリントや県の学力調査の過去問題に取り組んだり、その子に合わせた学習支援を行った。</p> <p>中学生コースは、夏休みの開催（10日間）に続けて、9月以降も月1回、土曜日に学校や家庭以外の環境で学習する機会を提供した。中学校免許を有する講師を各会場2名ずつ配置して学習支援を行い、市内小中学校に勤務しているALTによる英語の学習も行った。</p>		
連携団体	文京学院大学		
活動の成果	<p>小学校コースは115名、中学校コースは21名、計136名の児童生徒が参加し、自ら進んで学習する機会を設けることができた。</p> <p>小学校コースは毎回平均4名、中学校コースは毎回2名、各会場に講師を配置したことにより、よりきめ細やかな学習支援をすることができた。</p> <p>学校や家庭以外に学習する場を提供することができ、保護者や児童生徒の満足度も高かった。</p> <p>【参加児童の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生に分かりやすく教えてもらえた。</li> <li>・分からないところをすぐ質問できてすぐ答えてくれた。</li> <li>・静かに勉強できて集中できた。</li> </ul> <p>【保護者の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家でやるより集中して勉強がはかどったようだ。</li> <li>・親や学校の先生以外から見てもらうのはとてもいいことだと思う。</li> </ul>		



【ふじみ野寺子屋小学生コース】  
ALTによる英語学習の様子



【ふじみ野寺子屋中学生コース】  
個に応じた学習支援の様子

## 坂戸市

実施教室数	14教室	対象学校	全小学校
主な対象学年	4・5年	平均開催日数	20日
コーディネーター数	15人	ボランティア数	56人

### 教室紹介

教室名	学力のびのび塾	活動場所	公民館等
参加対象	4・5年	参加者数 (1日平均)	1教室 約12人
活動内容	<p>小学4年生が3年生の、小学5年生が4年生の国語・算数を学習する。前年度の学習を行い、「分かる」経験を積むことで、基礎学力の定着と学習意欲の向上につなげる。</p> <p>また、地域の人材を学習支援員として活用することで、支援員にとっても教える喜びを感じ、地域へ貢献する機会として機能し、活力ある地域づくりの一助とする。</p> <p>教室は地域の公民館等を使用し、参加児童の所属する学区の会場を確保できるよう、前年度より会場数を増やした。また、小学校の土曜日授業等を考慮した日程のため、開催日直前の水曜日に事前にメールアドレスを登録した保護者宛にお知らせメールを配信した。(日程忘れ防止)</p>		
連携団体	特になし		
活動の成果	<p>事業は4年目となり、保護者などにも定着してきている。会場数が増えてきたことにより、児童が参加しやすい環境が整ってきた。また、各会場に配置する国語辞典や漢字辞典、プリント冊子なども充実してきた。</p> <p>社会教育指導員の経験を持つ元校長である統括コーディネーターを配置すること、学校教育課、教育センターなどと連携していることで、様々な視点で事業を検討できた。</p> <p>また、学習支援員の募集を広く声掛けすることで、教員経験者だけでなく、地域の方の参加も増えてきた。</p>		



学習支援員に教えてもらいながら、集中して自主学習取り組む子どもたち



児童がつまづいた箇所は、学習支援員（地域の方）が丁寧に個別指導

## 鶴ヶ島市

実施教室数	1教室	対象学校	全小学校
主な対象学年	小学校5年	平均開催日数	20日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	4人

### 教室紹介

教室名	土曜学習会	活動場所	鶴ヶ島市立図書館
参加対象	小学校5年	参加者数 (1日平均)	35人
活動内容	<p>学習内容の量が多くなるとともに、つまづきが生じやすい小学校5年生を対象にして開催している。知識・技能の確実な定着と、活用力や応用力の一層の向上を図ることを目的に、国語と算数の2教科で、該当学年のプリント学習と学習支援ソフトが入っているタブレットPCを活用した学習を行っている。</p> <p>児童35人をAとBの2つのグループに分けて80分間学習に取り組む。プリント学習は、該当学年の内容に取り組むことにしているが、タブレット教材については、周囲の目を気にすることなく、自主的に内容を選んで学習に取り組むこととしている。その中で、分からないことや詳しく聞きたいことについては、学習指導員に質問し、教えてもらうこととしている。</p> <p>○工夫している取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・該当学年の学習内容のプリントを参加児童全員に取り組ませ、詳しく聞きたいことについては、教員免許取得者の元教員から指導してもらえるようにしている。そのため、学校での学習内容の確実な定着につながるようにしている。</li> <li>・学習支援ソフトを活用したタブレットPCでの学習では、周囲の友達の視線を気にすることなく、1年生から4年生までの学習も含めた児童の取り組みたい学年の学習に取り組めるようにし、児童の意欲や学力に合わせて学習できるようにしている。</li> <li>・参加者を選考する際には、意欲を記載させ児童の意識を選考基準にした。開校式後のオリエンテーションでも、一年間の到達目標を決めて、毎回目標を振り返させながら取り組んでいる。そのため、時間中は、集中して取り組んでいる。</li> </ul>		
連携団体	なし		
活動の成果	<p>アンケート調査では、「難しい問題を解けるようになった」「成績が上がった」「教え方がわかりやすい」などの感想が寄せられており、情意面では、肯定的である。今後、諸調査で成果として現れるかが課題である。</p> <p>来年度についても5年生を対象に実施する予定であるが、参加した子供たちのほとんどから、「次の5年生にも勧めたい」との感想が寄せられており、手ごたえを感じている。今年度の実施状況を踏まえて、学習内容の充実を図っていきたい。</p>		



【全体の様子】



【指導員・補助員からの支援】  
タブレットを使用した学習

## 毛呂山町

実施教室数	2教室	対象学校	4小学校
主な対象学年	4・5年	平均開催日数	19日
コーディネーター数	2人	ボランティア数	0人

### 教室紹介

教室名	もろ丸くんまなびアップ教室	活動場所	毛呂山中央公民館 歴史民俗資料館
参加対象	4・5年	参加者数 (1日平均)	毛呂山中央公民館 22人 歴史民俗資料館 16人
活動内容	<p>毛呂山町の土曜の教育支援事業は、町のマスコットキャラクターの名を冠した「もろ丸くんまなびアップ教室」を実施しており、今年度で2年目である。</p> <p>小学校4校が2つの中学校区に分かれるため、中学校区毎に1教室ずつ、中央公民館教室と歴史民俗資料館教室の2教室を設けて実施しているが、基本的な学習形態や内容は同じである。対象は、いわゆる「小4の壁」を念頭に、小学4年生、さらに5年生の児童を対象とした。</p> <p>主な教科は、算数と国語で、算数は教科書の復習や学習支援員が準備したプリントを用いた指導を行っている。</p> <p>国語は、毎回感想文を作成し、合わせて発表を行う。</p> <p>昨年度と同様に学年単位のグループ学習の形態をとっており、各グループに学習支援員がつき、学習指導にあたる。</p>		
連携団体	城西大学		
活動の成果	<p>指導にあたるのは、教員経験者の土曜教育コーディネーター、学生を中心とした学習支援員、また、経験豊富な学力向上支援員を配置している。</p> <p>指導する学習支援員は、城西大学に学生の派遣について協力を要請しているほか、町内在住の教員養成課程履修学生を募り、地域の人材の活躍の場となっている。</p> <p>グループ学習は、きめ細やかな学習指導が可能で、また、参加児童も、解らない事柄を聞きやすいという点で効果的である。昨年度参加した児童の学力の伸びが確実に認められたことから、グループ学習の形態が、「学びアップ教室モデル」として定着してきている。</p>		

第5「放課後子供教室推進事業」  
の実践事例（実施市町の取組）



【感想文作成の時間】



【まなびアップ教室 学習風景】



## 越 生 町

実施教室数	2教室	対象学校	全小・中学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	17日
コーディネーター数	2人	ボランティア数	0人

### 教室紹介

教室名	越生町体験講座	活動場所	公民館、町内小・中・高等学校
参加対象	全学年 (一部小4・5・6年生)	参加者数 (1日平均)	29人
活動内容	<p>「越生町のチョウと体が水にぬれないしくみ」 【実施日】8月 4日(土)【参加者数】20名 越生町に生息するチョウの仲間と生活の様子や、チョウの体が水に濡れない仕組みについて講師の話の聞き、顕微鏡でチョウのハネの観察や、鱗粉の転写を行った。</p> <p>「なんでもたたけばリズムができる！」 【実施日】7月29日(日)【参加者数】22名 世界のさまざまな国や地域で生まれたリズムや音楽を感じ、めずらしい楽器や、手作りの楽器で歌や踊りを楽しんだ。</p>		
連携団体	町内小・中学校、清和学園高等学校、昆虫談話会		
活動の成果	<p>各講座でさまざまな体験や実験などを行ったことで、子供たちからは驚きや感動の声があふれていた。</p> <p>各学校の先生方や、各分野の専門家の方に講師を依頼したことで、充実した講座内容となり、子供たちの興味や関心を深めることができた。</p>		

第5「放課後子供教室推進事業」  
の実践事例（実施市町の取組）



【越生町のチョウと体が水にぬれないしくみ】  
昆虫談話会の方々にチョウの体のしくみを詳しく教えてもらう様子

【なんでもたたけばリズムができる！】  
プロのミュージシャンの演奏に合わせて楽しく歌ったり、踊ったりする様子

## 熊谷市

実施教室数	18教室	対象学校	全小・中学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	18日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	50人

### 教室紹介

教室名	和田吉野川の水質と生き物調べ	活動場所	和田吉野川
参加対象	全学年	参加者数 (1日平均)	45人
活動内容	<p>熊谷の環境を考える連絡協議会や埼玉県河川環境団体連絡協議会、平塚新田自治会、立正大学生の協力のもとに、市内を流れる和田吉野川の水質や川の生き物調査、周辺の植物観察を行った。講師は川の生き物に詳しい埼玉県河川環境団体連絡協議会、植物に詳しい熊谷市サイエンスボランティアから立てた。</p> <p>子供たちは網を持って川に入り、魚を捕獲して観察を行った。魚は熊谷の環境を考える連絡協議会が用意した水槽に入れ、講師が説明を行った。また、川の周辺に自生する植物について散策しながら観察を行い、子供たちに説明をした。</p> <p>事業実施前は、熊谷の環境を考える連絡協議会や平塚新田自治会と共に、川の安全点検や参加者が川へ降りるための道づくりを行った。</p>		
連携団体	熊谷の環境を考える連絡協議会、埼玉県河川環境団体連絡協議会、平塚新田自治会		
活動の成果	<p>子供たちが川に入って川岸の草むらに網を入れ、草を踏んで生き物を追い込むと、エビやザリガニ、オイカワ、タイコウチ、ヤゴ、ナマズの稚魚等が網に入った。水槽に入った生き物は13種類。「エビのお腹のつぶつぶは何ですか?」「なぜ魚のお腹は白いのですか?」等、子供たちは観察をとおして疑問に思ったことを講師に質問し、一つ一つの質問に講師がていねいに答えた。子供たちは興味深く説明を聞き、学びを深めることができた。</p> <p>植物観察では、ギシギシやホソムギ、ユウゲショウ、篠竹の葉を使っての船づくり、スズメノテッポウでの笛遊び、カタバミの葉で十円玉をぴかぴかに磨く実験を行った。子供たちは、和田吉野川の豊かな自然環境が様々な生き物を育てていることを知り、熊谷市の自然や生き物の生命の大切さを学ぶことができた。</p>		



和田吉野川に生息する生き物調査と観察



和田吉野川に生息する生き物の説明

## 深谷市

実施教室数	19教室	対象学校	全小学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	32日
コーディネーター数	19人	ボランティア数	159人

### 教室紹介

教室名	小学生学習支援事業「がんばル〜ム」(本郷小学校「がんばル〜ム」)	活動場所	小学校の空き教室
参加対象	全学年	参加者数 (1日平均)	13人
活動内容	<p>主に算数と国語を中心に市販のワークを使用し、「ちいきの先生」が個別学習の指導・相談を行っている。</p> <p>様々な学年の子供たちが一緒に学習を行い、子供同士でわからないところを教え合うなど、異学年交流の場ともなっている。</p> <p>「がんばル〜ム」の活性化に向け、勉強だけでなく運動も取り入れる目的で、市スポーツ推進委員による「軽スポーツ教室」を実施した。今年度は「ふっかちゃん体操」「ドッジビー」を教えてもらい、子どもたちは楽しみながら体を動かしていた。</p> <p>本郷小学校では、子供と接するのが好きな方や、教育または学習塾等で子供を教えた経験が豊富な方等から一般公募し、教育委員会の面接を経て、登録した4人の「ちいきの先生」が自主学習の支援を行っている。先生方が個別に勉強を見ることができ、子供のペースに合った学習をすることができる。</p> <p>学校独自の活動として、ハーフタイム(休憩時間)の自由遊びや運動、学年末にお楽しみ会を実施し、異世代・異年齢の交流を図っている。</p> <p>子供の安全を確保するため、避難訓練も実施している。</p>		
連携団体	スポーツ推進委員		
活動の成果	<p>完全学校週5日制が定着し、子供たちの休日の過ごし方は多様となり、より充実したものとなっている。本事業は、子供たちが有意義な土曜日を過ごすための一つの選択肢として、大変重要である。</p> <p>子供たちへのアンケートでは、「勉強やハーフタイム、お楽しみ会が楽しかった」「来年度も参加したい」との回答が多く見られ、とても好評であった。</p> <p>勉強以外にも楽しめるプログラムを取り入れながら、学校・家庭と一層連携し、充実した「がんばル〜ム」へとつなげたい。</p>		



【本郷小「がんばル〜ム」学習風景】



【本郷小「がんばル〜ム」軽スポーツ教室】

## 寄居町

実施教室数	1教室	対象学校	全小学校
主な対象学年	6年	平均開催日数	25日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	4人

### 教室紹介

教室名	小学生より・E英語塾	活動場所	寄居町役場
参加対象	6年生	参加者数 (1日平均)	50人
活動内容	<p>寄居町立各小・中学校にALTを派遣している業者に業務を委託して、7月下旬から2月下旬まで、原則土曜日に全25回実施している。</p> <p>町内6校の6年生を対象に、英語を使ったコミュニケーション（英会話）の授業を50分間行う。授業は日本人講師と外国人講師で行い、すべて英語でコミュニケーションをとる。</p> <p>7月から9月までの3か月間で、自分のことについて英語で話せるようにする。10・11月の2か月間で、日本や世界各国について英語で紹介できるようにする。12月には、「読むこと」と「書くこと」の活動を行う。1・2月には、今までの復習を兼ねて、自分で課題を決め、英語で発表会を行う。</p>		
連携団体	(株)RCSコーポレーション		
活動の成果	<p>授業がすべて英語で行われたため、最初は戸惑う児童も多かったが、ゆっくりたくさん聞かせることで、うなずいたり、身振りや手振りなどを使ったりと、コミュニケーションがとれるようになった。</p> <p>ペア学習、グループ学習をたくさん取り入れ、積極的に取り組むことができるようになり、町内6校の児童が集まり同じ場所で学ぶことで、友達関係が広がり、円滑な人間関係を構築することができた。</p> <p>中学校に進学しても、英語が楽しみだという児童からの声が聞かれた。</p>		



【特徴をとらえて、動物を当てよう！

～スリーヒントゲーム～

U字型に椅子を並べ、先生と児童、児童と児童の距離を縮めている。

【曜日・天気・季節の言い方について】

ALTと目を合わせて自分の意見を言えるようになった。聞いている児童も、友達の会話に耳を傾けてうなずいている姿が見られた。

## 三郷市

実施教室数	6教室	対象学校	全小・中学校
主な対象学年	小1～中3年	平均開催日数	88日
コーディネーター数	2人	ボランティア数	0人

### 教室紹介

教室名	中学生自習教室・中3入試教室	活動場所	算数ルーム
参加対象	中学1～3年	参加者数 (1日平均)	12人
活動内容	<p>○中学生自習教室（どよごご） 市内の中学1～3年生を対象とした自習教室（どよごご）を、土曜日の午後を中心に計20回実施した。参加者は、市内各校から集まり、意欲的に宿題や定期テストの学習等に取り組んだ。分からない問題があれば、いつでも気軽に質問をし、単元ごとにまとまっているプリントを自分で選び、自分の力を確かめながら学習を進めた。</p> <p>○中3入試教室 秋と冬の週末、中3受験生を対象に補習教室として実施した。秋季入試教室は、数学・英語2教科で基礎的な学習を2会場で2回ずつ実施した。また、英語・数学のやや難易度の高い問題にチャレンジする学習も2会場で2回実施した。冬季入試教室は、国語・数学・英語・理科・社会の5教科を2会場で終日2回ずつ実施した。</p>		
連携団体			
活動の成果	<p>今年度から市内の中学生を対象とした自習教室を実施した。また、6年目となる中3入試教室も実施した。2つの教室とも、講師は、豊富な指導経験のある退職校長や市内中学校教員等が行った。</p> <p>市内中学生が、家庭での予習・復習や中間・期末テスト・入試試験などの対策に積極的に取り組むとともに自主性と学力の向上を図った。</p>		



【中学生自習教室】



【中3入試教室】

# 北本市

活 動 名	ナイトスクール
-------	---------

中 学 校 数	4校	実 施 教 室 数	2教室
対 象 学 校 数	4校	対 象 学 年	3学年
平 均 年 間 開 催 日 数	19日	参 加 人 数 (1日平均)	37人
活 動 場 所	北本市文化センター	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	2人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	14人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	教員OB、教員、地域住民

## 活 動 紹 介

活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内全ての中学3年生の希望者を対象とし、北本市文化センターを会場に、6月から2月の土曜日(合計19回)に2校ずつに分け実施した。</li> <li>●学習時間は2時間程度、英語、数学の基礎的・基本的な内容を中心として学習支援を行った。</li> </ul>
実施にあつた工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講師の人数を充実させ、個別指導ができるようにした。</li> <li>●基礎・基本の定着を図るために県作成の「学力向上ワークシート」(コバトン問題集)や、入試対策の問題集を活用した。</li> </ul>
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個の課題に対してきめ細かく支援することができ、生徒の学習意欲が高まった。</li> <li>●基礎学力の定着の充実を図ることができた。</li> <li>●生徒が自ら進んで質問するなど、安心して課題に取り組むことができた。</li> <li>●教員や教員OB、また地域の方の協力を得たことで、学校、地域と連携した組織的な学力向上の取組ができた。</li> </ul>

第5「放課後子供教室推進事業」の実践事例(実施市町の取組)



### 【個別指導の様子】

生徒一人一人を講師が指導することで、個別の課題解決を図り、きめ細かな学習支援をすることができた。



### 【学習意欲の高まり】

分からない問題をそのままにせず、手を挙げて積極的に講師を呼ぶ姿が見られた。

# 越 生 町

活 動 名	越生中学校学力アップ教室
-------	--------------

中 学 校 数	1 校	実 施 教 室 数	1 教 室
対 象 学 校 数	1 校	対 象 学 年	全 学 年
平 均 年 間 開 催 日 数	1 8 日	参 加 人 数 ( 1 日 平 均 )	1 5 人
活 動 場 所	中 学 校 教 室	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1 人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	2 人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	教 育 委 員 会 職 員

## 活 動 紹 介

活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中学校全学年の生徒を対象とし、夏休み期間中に補充学習を5日間、また定期テスト前に質問学習の時間を設けた。</li> <li>● 学習内容は、主に教科書を中心とした学習プリントを作成し、学習支援を実施した。</li> </ul>
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事前に教員が生徒一人一人のつまずきを分析したうえで、支援にあたる臨時講師と打合せを密に行い、指導に関する情報や具体的な指導方法を共有した。</li> <li>● 補充学習後の確認テストの採点を行う際には、指導した内容が理解できているかどうか、きめ細かく確認した。さらに、その後の授業や質問学習で再度、同様の問題に取り組ませるなど、反復学習する機会を設け、基礎学力の定着を目指した。</li> </ul>
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補充学習では、繰り返し学習により基礎力の定着が進み、やればできるという実感をもった生徒が多かった。</li> <li>● 応用力を高める話し合い活動では、生徒のつまずきだけでなく、他の生徒がその解決方法を伝える様子から、生徒一人一人の理解度を把握することができ、次回の指導時に役立てることができた。</li> <li>● 参加した生徒の感想                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生方が細かく指導してくれるおかげで、分からなかったところがわかるようになり、また、すぐに質問ができて良かった。」</li> <li>・「計算問題を何度も繰り返し勉強したことで、前より理解できるようになった。」</li> </ul> </li> </ul>

第5「放課後」(共教室推進事業)の実践事例(実施市町の取組)



**【質問学習の様子】**  
定期テスト前に一人一人の質問に応じた。



**【補充学習の様子】**  
採点後は丁寧に解説し、指導した内容が理解できているか確認を行った。

# 熊谷市

## 活動名 学習支援充実くまなびスクール

中学校数	16校	実施教室数	16教室
対象学校数	16校	対象学年	全学年
平均年間開催日数	24日	参加人数(1日平均)	240人
活動場所	各中学校教室	コーディネーター数	16人
ボランティア数	41人	ボランティアの属性	教員OB、教員免許状所有者、学生

### 活動紹介

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員OBや教員免許状所有者、学生等の有償ボランティアによる、生徒一人一人に対するきめ細かな指導をとおして、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図った。</li> <li>●市内全ての中学生に参加を呼びかけ、参加を希望した生徒を対象に、市内の中学校(16校)を会場に年間30回以内で週1回程度(1回2時間)実施した。</li> <li>●学習形態は国語、数学、英語を中心とした自学自習形式で、一部講義形式も取り入れた。</li> </ul>
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会場は各中学校とし、実施日については各中学校が設定した。このことにより、学校の実情に応じた運営ができた。</li> <li>●学習支援員を対象とした研修を年間2回実施し、それぞれの指導力向上を図った。</li> <li>●市内の全生徒に配布してある「熊谷市学力向上テキスト」(熊谷市教育委員会作成)を各学習支援員に配布し、テキストとして活用した。</li> <li>●市内にある大学の教職課程専攻の学生に「くまなびスクール」について説明をする機会を設けたことで、学生の学習支援員の確保につながった。</li> </ul>
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経済的な理由等の限定をかけずに、市内全ての中学生に参加を呼びかけたため、学習の機会を保障し、個に応じたきめ細かな指導を行うことができ、市内の中学生全体の学力の底上げにつながった。</li> <li>●埼玉県学力・学習状況調査生徒質問紙調査「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して、「全くしない」と回答した生徒が、中学2・3年生ともに埼玉県よりおよそ6ポイント程度低く、家庭学習の習慣が着実に定着してきた。</li> <li>●他市在住の学習支援ボランティアからも「学びたい子供に学習の機会を与える素晴らしい取組であり、熊谷市の子供は恵まれている」と活動の感想をいただいた。</li> </ul>

第5「放課後子供教室推進事業」の実践事例(実施市町の取組)



**【個別支援の様子】**  
 生徒のつまづきに対して、学習支援ボランティアが個別に解説したり、どこからわからなくなっているのかつまづきのもとを一緒に振り返ったりして、生徒のやる気をアップさせるようにした。

**【市で作成した学力向上テキスト】**  
 授業の予習・復習や3年間の学習内容の振り返りなど生徒の自学・自習に活用できるように市で作成した。



# 秩父市

活 動 名	チチブアフタースクール・スタディ～夜勉～
-------	----------------------

中 学 校 数	8校	実 施 教 室 数	5教室
対 象 学 校 数	8校	対 象 学 年	全学年
平 均 年 間 開 催 日 数	20日	参 加 人 数 (1日平均)	55人
活 動 場 所	各公民館	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	2人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	27人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	教員OB、大学生、高校生、地域住民

## 活 動 紹 介

活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内全ての中学生を対象とし、6月から2月にかけて、年間20日、18:30～20:00までの1時間30分、地域の2つの公民館会場で学習支援を実施した。</li> <li>●生徒は各自、自分が学習する問題集等を持参し、その取組に対して学習支援員が支援した。</li> <li>●希望する生徒には、コーディネーターが作成した学習プリントを配布し、その解説も行った。</li> </ul>
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の学習指導に併せ、地域人材による学習支援の場を設けることで、生徒の更なる学力向上を図ることを目的とした。</li> <li>●学習ボランティアを地元に住む教員OBや大学生、高校生等をお願いした。また、市報等でも公募し、随時募集を行った。</li> <li>●講座当日の会場運営や学習支援員の配置は、アフタースクールスタディコーディネーターが行った。</li> <li>●昨年1人だったコーディネーターを今年度は2人に増やし、会場を2会場にしたことで、昨年度は希望が少なかった学校からの参加者が増えた。</li> </ul>
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習支援員は、本講座では親しみを込めて「夜勉先生」と呼ばれており、「夜勉先生」の熱心な指導や温かい声かけで、教室が安心して学習できる場となった。</li> <li>●保護者からは、「教育委員会主催で安心だ」、「勉強する習慣がついてきた」など、好意的な声が多く寄せられた。</li> <li>●「夜勉先生」の高校生・大学生の中には教員志望者も多く、彼らにとっても良い経験となった。</li> <li>●高齢の「夜勉先生」からも「中学生に教えるのは自分の生きがいである。」との声が寄せられており、家庭・地域が一体となった事業となった。</li> </ul>

第5「放課後」(共教室推進事業)の実践事例(実施市町の取組)



【学習の様子】

高校生も「夜勉先生」となっており、生徒にとっては親しみやすい存在となっていた。



【学習の様子】

基本的には自主学習を行い、質問がある生徒の支援を「夜勉先生」が行った。

# 深谷市

活動名	ステップアップレッスン
-----	-------------

中学校数	10校	実施教室数	10教室
対象学校数	10校	対象学年	全学年
平均年間開催日数	90日	参加人数(1日平均)	180人
活動場所	各中学校教室	コーディネーター数	10人
ボランティア数	38人	ボランティアの属性	教員OB、大学生

## 活動紹介

<p><b>活動内容</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習に対して不安を持っている生徒や、学習する時間を増やそうとしている生徒に、学習できる場・環境を提供し、基礎的・基本的学習内容を補習し、生徒の学力と学習の質を向上させるために実施した。</li> <li>●平日は部活動休止日の水曜日や放課後の時間が長い日を選んで実施した。また月2回を基本としての土曜日および夏休み、冬休み等の長期休業中も実施した。</li> <li>●実施計画や学習内容は学校教員・他の支援員と連携して計画し、担当職員を中心に教材資料作成を行い、生徒自身の持ち込み教材と合わせて、学力のステップアップに取り組んだ。</li> <li>●参加した生徒同士での教え合い、担当教員への質問を中心に行った。</li> <li>●他の学校教員や学生ボランティアとも連携し、助言・指導を行った。</li> </ul>
<p><b>実施にあたっての工夫</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校教員や学生ボランティアとも連携をとりながら実施した。</li> <li>●部活動単位の補習学習も行った。</li> <li>●取組にあたっては、工夫、改善、目標を意識して取り組ませた。</li> <li>●学習に際して、質問が積極的に出てくるように促した。</li> <li>●学び合いのマナーを意識させた。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・静かで集中している場の中での適度な声と会話の指導</li> <li>・時間の始めのマナーの伝達・掲示</li> </ul> </li> <li>●疑問・質問に対して答えだけでなく、その背景にある方法や考え方も理解に応じて助言し、学習を深めるように指導した。</li> <li>●一人一人に応じたステップでの学習支援や具体的な指導を心がけた。</li> <li>●実施時間帯や他の教育活動との関連環境を考慮して、指定教室の移動や複数教室での実施ができるよう調整を行った。</li> </ul>
<p><b>事業を実施しての成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒が学習マナーに慣れてくると、質問が多くできるようになり、理解が深まった。</li> <li>●学習する場の提供で、家庭学習の定着が進む機会となった。</li> <li>●ノートまとめや、基礎基本を理解するための方法などが向上してきた。</li> <li>●用意した教材をとおして、復習させ、理解を深めさせた。</li> <li>●学び合う学習をとおして、自分たちの学習環境をよくしようとする力がついてきた。</li> <li>●学習意欲の向上がみられ、自信をつけさせる機会にもなった。</li> </ul>



活動の様子【教室1】



活動の様子【教室2】

# 長 瀬 町

活 動 名	長瀬町中学生学力アップ教室「チャレンジ土曜塾」
-------	-------------------------

中 学 校 数	1 校	実 施 教 室 数	1 教室
対 象 学 校 数	1 校	対 象 学 年	3 学年
平 均 年 間 開 催 日 数	2 0 日	参 加 人 数 ( 1 日 平 均 )	2 0 人
活 動 場 所	公 民 館	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1 人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	2 人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	塾 講 師

## 活 動 紹 介

活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象 長瀬中学校に在籍する中学3年生のうち、学習に苦手意識のある生徒</li> <li>●実施日時と回数 8月上旬から2月下旬までの土曜日に20回、各回2時間程度実施</li> <li>●内容 高校入試を目指した基礎問題(数学・英語)</li> <li>●指導者 学習塾講師1人、講師補助1人</li> </ul>
実施にあつた工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●開室日は運動部の部活動引退後の8月からとし、場所は生徒が自力で通室のできる中央公民館とした。</li> <li>●事前に対象学年にアンケートをとり、学習内容を数学基礎・英語基礎に絞った。</li> <li>●基礎的な内容の確認は全体指導で行い、個別学習では講師が個別に指導していくことで、課題解決へ向かうよう支援した。</li> <li>●講師は、出席確認の際に生徒と簡単な英語での会話を行うなど、学習時間以外においても積極的に交流を図った。</li> <li>●教室の準備と清掃は、生徒が責任を持って行うことができた。</li> </ul>
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講師が高校入試に向けての心構えや、学習の取り組み方の指導も熱心に行ったことで、生徒は受験を見据えて学習に取り組めた。</li> <li>●8月上旬から開室したため、2学期が始まる前に1・2年生の内容についての自分の理解度を確認することができた。</li> <li>●学習に苦手意識のある生徒を対象としていたが、助言を受けながら問題を解くことで、少しずつ苦手意識が薄れていった。</li> <li>●生徒からは「個人持ちのテキストの指導もしてほしい」との意見があったため、来年度の指導計画を立てる際に検討していく。</li> </ul>

第5「放課後」(共教室推進事業)の実践事例(実施市町の取組)



【全体指導の様子】



【講師2人による個別指導】

## 小鹿野町

活 動 名	中学生未来塾
-------	--------

中 学 校 数	1校	実 施 教 室 数	3教室
対 象 学 校 数	1校	対 象 学 年	全学年
平 均 年 間 開 催 日 数	15日	参 加 人 数 (1日平均)	60人
活 動 場 所	小鹿野文化センター	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	2人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	16人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	塾講師、教員OB

### 活 動 紹 介

活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的には、毎月第2・第4土曜日の午前中に、英語・数学・国語の教室を実施した。</li> <li>●学習内容は、学校の授業の補習を中心に行っている。</li> </ul>
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●民間塾講師・教員OBの協力を得て、実施した。</li> <li>●遠距離の生徒が参加しやすいように、スクールバスの運行も行った。</li> <li>●参加生徒の習熟度に応じた教室編成を工夫した。</li> </ul>
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一人一人の生徒の実態に応じた学習を進め、基礎的な学力や学習意欲を高められた。</li> <li>●地域の講師とふれ合うことで、学習だけでなく、学び方や生き方まで学ぶことができた。</li> <li>●地域・家庭・学校が一体となって教育を進めるきっかけづくりになった。</li> </ul>



【国語の教室】

活用力の育成を目指した少人数指導の様子。



【英語の教室】

基礎学力を中心とした少人数指導の様子。

# 上 里 町

活 動 名	上里町中学生学力アップ教室
-------	---------------

中 学 校 数	2校	実 施 教 室 数	2教室
対 象 学 校 数	2校	対 象 学 年	3学年
平 均 年 間 開 催 日 数	64日	参 加 人 数 (1日平均)	40人
活 動 場 所	上里町中央公民館	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	10人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	教員OB、大学生、地域住民

## 活 動 紹 介

活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町内の中学3年生を対象とし、7月から2月にかけて、週2回(テスト前には週3回)、放課後の2時間程度、上里町中央公民館で5教科を中心とした学習支援を実施した。</li> <li>● 町内には中学校が2校あることから、中学校ごとに2つのクラスに分けた。</li> <li>● 教科は、国語・数学・英語・理科・社会で、決められた時間割に従って実施するとともに生徒の質問に対して支援する時間も設け開催した。</li> <li>● 参加生徒は、学習する教科の教材を持参し、学校の宿題及び学校での学習に関する予習や復習を行い、分からないところについては、学習支援員に質問していくようにした。</li> </ul>
実施にあつての工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教室開始日を、生徒が参加しやすいよう、運動部活動が終了した7月に設定した。</li> <li>● 開催場所を、町の中央に位置する中央公民館にして、生徒が通いやすくした。</li> <li>● 事前に参加する保護者のメールアドレスを登録し、緊急時等の連絡として活用した。</li> <li>● 毎回教室を開催する前に学習支援員打合会を実施し、生徒の様子や指導方法の確認等を行った。</li> <li>● 「自力で家庭学習に取り組める力を育てる」をベースとして、自力解決をしながら、分からないところを聞く態度を養う中で、学習の仕方を学ばせ、「これがわかった」と実感できるような支援を行った。</li> <li>● 7月から国語・数学・英語・理科・社会で決められた時間割に従って教室を開催したが、高校入試に対応するため、1月より時間割は設けず、5教科のうち、勉強したい教科を持参させて個に対応した支援を行った。</li> </ul>
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本年度で「上里町中学生学力アップ教室」4年目となり、定員40名のなか参加生徒が平成27年度23名、平成28年度27名、平成29年度30名、平成30年度40名と増加している。事業の生徒・保護者への認知度の高まりと有効性について高まってきている。</li> <li>● 参加生徒の保護者に実施したアンケートの結果では「学力が上がったか」との質問において、「上がった」と回答した割合が平成28年度76%、平成29年度79%、平成30年度86%であった。また、「学習意欲が高まったか」との質問において、「高まった」と回答した割合は平成28年度86%、平成29年度88%、平成30年度93%となり、ともに増加している。</li> <li>● 現在、中学2年生の生徒・保護者から中学生学力アップ教室について実施回数や定員を増やしてほしいという要望が届いている。</li> <li>● 今後は、保護者アンケート結果や学力アップ教室の課題を詳細に分析し、「学力」「学習意欲」がさらに向上するよう改善していく。</li> </ul>

第5「放課後子供教室推進事業」の実践事例（実施市町の取組）



【学習の様子】

学習支援員が丁寧に解説したりすることで自力解決への意欲を高めている。



【学習の様子】

学習支援員とともに学ぶ仲間と「学び合い学習」を積極的に取り組んでいる。

# 寄居町

活 動 名	より・E土曜塾
-------	---------

中 学 校 数	3校	実 施 教 室 数	8教室
対 象 学 校 数	3校	対 象 学 年	3学年
平 均 年 間 開 催 日 数	39日	参 加 人 数 (1日平均)	60人
活 動 場 所	寄居町役場	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	2人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	8人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	塾講師

## 活 動 紹 介

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● (株) トライグループに業務を委託して、「より・E土曜塾」を実施した。</li> <li>● 「春塾」(4月に4回)、「定期テスト対策講座」(6・7月に6回)、「受験対策講座」(7月から2月に19回)の3回に分け、全29回実施した。</li> <li>● 中学校3年生対象、土曜日または日曜日に週1回、数学、英語各60分ずつの授業を実施した。</li> <li>● 習熟度別の少人数グループ(2~6人)に講師1人を配置し、きめ細かい個別指導を行った。</li> <li>● 保護者会(3回)や個人面談(随時)で、高校受験対策への助言や相談を行った。</li> <li>● 「英検対策講座」を、中学校2・3年生を対象として実施した。全5回、1回60分の英検対策の授業を実施した。</li> </ul>
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「春塾」、「定期テスト対策講座」、「受験対策講座」の3回に分けて生徒を募集した。「受験対策講座」は3年生の部活動が終わり、受験に向けて意識が高まってくる夏季休業中から開始することで、より多くの生徒が参加できるようにした。</li> <li>● 定期テストに向けて、各中学校のテスト範囲に応じて授業を実施した。</li> <li>● 委託業者が提供しているWebサイトを活用し、家庭でもスムーズに学習できるようにした。</li> <li>● 保護者会や個人面談で高校受験対策の助言をしたり、相談に応じたりし、生徒が高校受験に向け、自分に合った勉強方法を身に付けることができたようにした。</li> <li>● 「英検対策講座」を「より・E土曜塾」と同日開催し、英検に多くの生徒が合格できるようにした。</li> </ul>
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 習熟度別のグループにより、実態にあった授業が展開されているので、「分かる」、「できるようになった」という声が多く聞かれた。</li> <li>● 回を重ねるごとに生徒と講師との人間関係も構築され、生徒が気軽に質問をし、自分の苦手な部分を克服している姿が見られた。</li> <li>● 「春塾」、「定期テスト対策講座」、「受験対策講座」の3回に分けて参加者を募集したので、「受験対策講座」では参加者の割合が3割を超えた。</li> <li>● 8月、10月、12月の3回テストを行い、学力の伸びを確認することができた。</li> <li>● 定期テスト対策では、各学校のテスト範囲に応じて、苦手な部分を個々に対応したため、自信をもってテストに臨むことができた。</li> <li>● 英検対策講座に多くの生徒が参加し、英検の合格者数も増えた。3級以上の取得率は24%であった。</li> <li>● 保護者会と三者面談を実施することによって、学力向上に向けた家庭学習のあり方について理解を深めることができた。</li> </ul>

第5「放課後子ども教室推進事業」の実践事例(実施市町の取組)



【土曜塾の学習の様子】

少人数グループでのきめ細かい個別指導を行い、生徒の理解を深めている。



【英検対策講座の様子】

受験する級ごとに英検対策の授業を行い、英検合格を目指して学習している。

# 加 須 市

活 動 名	加須市まなびTime
-------	------------

中 学 校 数	8校	実 施 教 室 数	5教室
対 象 学 校 数	8校	対 象 学 年	全学年
平 均 年 間 開 催 日 数	35日	参 加 人 数 (1日平均)	100人
活 動 場 所	市内コミュニティセンター他	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	5人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	13人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	大学生

## 活 動 紹 介

活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内の中学校に通学する全ての生徒を対象とし、希望者に5月から3月にかけて、毎週1回(土曜日または日曜日)、2時間実施した。</li> <li>●学習内容は、国語、社会、数学、理科、英語の5教科を中心に、個別の課題に沿った学習を実施した。</li> <li>●5教室で約140人の申込があった。</li> </ul>
実施にあつた ての工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学生には、小学校6年生の3月から事前に広報して、加須まなびTimeの募集を促した。</li> <li>●会場は、市内の公民館やコミュニティセンターを活用して、学校や教員に負担がかからないように配慮した。</li> <li>●市内5会場に教室を設定し、市内のどの中学校区に居住していても通いやすいように配慮した。</li> <li>●全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果から、本市の課題に、「学力の定着に個人差が見られる」「家庭学習の時間が十分でない」が挙げられた。そこで、生徒が自分の学習したいものを好きなように学習できるよう、自主学習の形態を採用した。</li> </ul>
事業を実施し ての成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●参加している生徒の感想より                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・「分からないことがあってもすぐ先生たちに聞けるから、すごく助かりました。」</li> <li>・「家ではなかなか勉強に集中できなかったため、加須まなびTimeに参加してよかったです。」</li> <li>・「2時間が短く感じました。もっと長い時間やってほしい。」</li> </ul> </li> <li>●1、2年生の参加者も多く、家庭学習の定着にも効果が見られた。また、3年生の参加者は、受験対策として、応用問題にも積極的に取り組むことができた。</li> <li>●参加している生徒は、学習に対する自主性も高まった。</li> </ul>

第5「放課後子供教室推進事業」  
の実践事例（実施市町の取組）



【全体の学習の様子】

コーディネーター等の方が、生徒の質問等に積極的に答えていた。



【個別指導】

分かるまで個別に最後まで丁寧に指導していた。

# 久喜市

活動名

くき本樹塾

中学校数	11校	実施教室数	11教室
対象学校数	11校	対象学年	全学年
平均年間開催日数	29日	参加人数(1日平均)	220人
活動場所	各中学校教室	コーディネーター数	8人
ボランティア数	43人	ボランティアの属性	教員OB、教員免許保有者、大学生

## 活動紹介

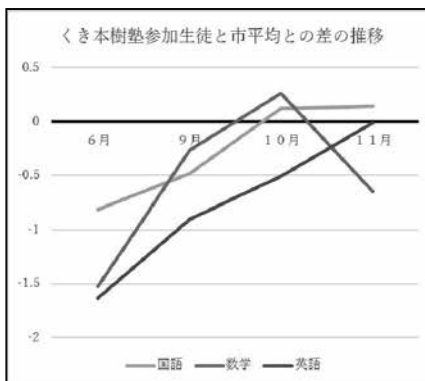
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内全ての中学生を対象とし、6月から2月にかけて、週1回、放課後の2時間程度、各中学校の教室において実施した。</li> <li>●学習内容は、国語、社会、数学、理科、英語の問題集等を使い、個別の学習支援を実施した。</li> </ul>
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校運営協議会からの推薦を受けた方をコーディネーターとすることで、学校との連携を密にし、情報を共有した。</li> <li>●情報を共有することで、より一層、生徒一人ひとりの実態に合った学習支援を行うことができた。</li> </ul>
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの変容を学力の伸びと捉えたと仮定したとき、埼玉県学力・学習状況調査と同様の性質をもち、5月～1月まで毎月実施している久喜市独自の学力調査「久喜市ステップアップテスト」の結果から、本事業参加生徒は参加していない生徒と比較して、約半年間で学力の伸びが約1.4レベル大きかった。</li> <li>●参加生徒への意識調査から、本事業に参加することで学習の理解が深まったと回答した生徒の割合が約91%であった。</li> <li>●参加生徒の感想より             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「前まで解けなくて、けっこう苦戦していた問題を3つも分かるようになって良かったです。分かりやすかったです。」</li> <li>・「今日は、明日のテストに向けた勉強をやりました。√の問題や英作文を教えてもらい、より理解が深まったので良かったと思います。」</li> <li>・「今日はワークを全て終わらせました。範囲のところがしっかりと分かるようになってうれしいです。」</li> </ul> </li> </ul>

第5「放課後子供教室推進事業」の実践事例（実施市町の取組）

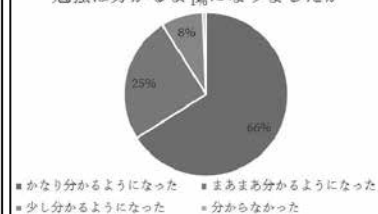


### 【学習の様子】

ボランティアが個に応じた支援を行い、丁寧に解説することで生徒の学力が向上した。



### 勉強は分かるようになったか



### 【参加生徒への意識調査】

90%以上の生徒が「分かるようになった」と回答した。

### 【久喜市ステップアップテストにおける変容】

参加生徒の学力が約半年間で向上していることが分かった。